

にとつて忌まはしい事になるか知れません。或る未開國では、食事は常に私的に行はれます。

不快を起させることを恐れるのが、慎しみの主な原因である事は明らかです。秩序ある社會では、我々は言動によつて不快を生せしめる事を避けねばなりません。が、我々は不快を非常に危険なものと誇張して考へ、自然な、無害なものに對してさへ不快を示す事がないやうに注意せねばなりません。本當の慎しみといふ事を教へられぬ人は、人間の肉體の美しい姿を見ても不快を現はします。自然な、正しい心は、病的な、不正な心がたゞ醜惡と不快を見出すものの中に、屢、美と喜びを發見します。

教養ある男女は、不謹慎もわざとらしい慎しみも兩方とも避けねばなりません。卑しい心をもつた、或は不十分な教育を受けた人々は、屢、わざとらしい慎しみを必要な話をも明らかにする事が出来ません。年上の、責任ある人に向つて健康に關することや、人類の存續に關係ある當惑させられる問題を率直に話す必要のある時に、少女達は秘密を守りたがります。間違つた慎しみは、精神の苦痛や肉體の病氣を生み

ます。我々は過度の慎しみは避けねばなりません。誰もが氣をつけるべき慎しみの感情と、野卑な失禮なわざとらしさを區別せねばなりません。

慎しみとわざとらしさの區別を調べて見ませう。慎しみ深い少女は、社會のために必要な禮節の習慣を守らうとつとめます。その少女は、それ自身何の邪氣もない或る問題も、多くの人々が反對してゐるので、一般の前では率直に話し合へないといふ場合を経験するでせう。が、反對にその問題は個人及び種族にとつて非常に重大なことであり、それについて教育ある、洗練された人々と話し合ふことは、正しい知識を得るために何より必要なことかも知れません。そこで本當に慎しみ深い少女は、自分の未來の母性としての仕事及び子供の幸福についての問題を、かくす事はしないでせう。その少女は、何の不快な感情を興へることもなく、衛生や操行の問題について質問するでせう。

慎しみ深いといふ美德も、不謹慎といはざるを得ない或る物の中に墮とされる事があるのは明らかです。人類の進化の段階を降りて行くと、我々は未開人達が屢、非常な

慎しみ深さを示す場合を發見するでせう。或る場合には、不快を與へることを避けようとする配慮が滑稽で、病的である場合さへあります。これは我々の國に於ても、低い、無教育な階級の間に見受けられる事です。不快は全くいやな感情であり、自分や仲間に悪い結果を與へる事がありませう。子供を世話する事を不快に感ずる母は、能力ある親である事は出来ません。人間の身體とその働きを不快がる醫師は、心の確かな患者に迎へられないでせう。

教養が、不快を催はさせる多くの事をとり除いてくれるのは明らかなことです。我が生命の不思議を知り、その自然の法則と経過とを理解しはじめるとき、最も高き美を認め得るものはたゞ清い、教養ある心のみだといふ事を知るでせう。未開人は仲間が食事をしてゐるのを見ても、不快に感じます。が、教養ある人は、そのやうな不快の感情を通り越し、食事を社會的交際的手段としてゐます。

我々の不快は、無智から生ずる偏見が原因である事が多いのです。わざとらしい慎しみは、清らかな心をもつた人にとつては不快です。何故ならそれは、人間の身體に

對する侮蔑的な考へや男女の愛情關係に對する野卑な感じが原因だからです。わざとらしさは、不愉快でも惡魔的でもないものを不愉快に感じ、惡魔的に感じます。眞に慎しみ深い心は肉體を尊敬し、精神の最も高貴な現はれの或る物は生理的な器官から生ずるものだといふ事を知つてゐます。

脳髓は灰色の、軟かな塊りであり、人はたゞの物質と考へるかも知れません。しかし我々は、この器官こそ道徳的觀念や最も偉大で高貴な行爲や天才の仕事や發明の媒介物だといふ事を知つてゐます。そして又我々は生殖器官が、支配的な指導的な頭腦と密接な關係をもつてゐる事を知つてゐます。かくして我々は、自然の仕事に對する尊敬の念なくしては如何なる器官を見る事も出来ないのです。それらの物を輕蔑するのは、馬鹿であり無智であります。我々はそれらの物を、たとへば皮膚から眼を作りその他の奇蹟的な數々の進化をなした靈妙な、永遠の力の現はれとして、尊敬せねばならないのです。

わざとらしさ或は猫かぶりは、本當の慎しみの腐敗であり、墮落であります。それ

は多くの悪い結果を及ぼします。猫かぶりの人間は、生命の神秘を探ぐることを押しとどめます。しかし野卑な好奇心を破壊することはしないのです。反対に抑壓された好奇心はますます鋭くなります。適当な満足が與へられず、自然の法則がはつきりさせられない時は、好奇心は病的にさへなります。わざとらしい猫かぶりは、多くの人生の出来事に對して、誤つた歪んだ見解を與へ、罪を犯した人に同情のない裁斷を與へ、ますます悪い方面へ追ひ立てます。このやうな態度をもつてしては、罪惡を失くす事は出来ません。我々は同情や愛をもつて、罪に落ちた者を起ち上らさなければならぬのです。或る誘惑にはかゝらない人とかゝる人とかありますが、一般に我々の中にも絶対に罪を犯さないといふ人は一人もない事をよく知らねばなりません。

わざとらしさは清い心ではなく、本當の慎しみとは反對のものです。生れながらの猫かぶり、わざとらしい心をもつた多くの人々は、非常に正しい事をも不快だといひます。本當に慎しみ深い女性は、生命のいろいろな現象に對して不快を示しません。が、愛の衝動の誤用や、罪惡や、野卑や、無害なものに對して羞恥を裝ふことや――

これらのことを非常に不快に感じます。

第六課 結 婚

結婚生活によつて愛人達が結びつく事は新しい幸福をもたらし、新しい責任を生みます。二人が嚴肅な結婚によつて一人とされた時、各自は將來の輝やかしい約束に満ちた大きな冒険に足を踏み入れたのです。結婚に對して自然な、そして道徳的な裁可を與へるものは、相互の強い魅惑と求愛とより生じた愛情です。愛及び一緒になりたといふ希望なくしては、男女の眞の結合があるわけはありません。

女性は結婚の承諾を與へる前に、結婚生活の本當の意味とその義務とを十分に理解しなければなりません。若い時の夢は、屢々、方向を誤ります。そして感情があまり強くと慎重な思慮や自己反省が、その感情に壓倒されてしまひます。結婚前の愛し合ふ男女達がたゞ夢中になつてしまつて、いろ／＼な失敗や罪に落ちることは非常に多い。又多くの少女達は、相手に對する強い執着もなくして結婚します。時としてはいろ／＼

な不満足や不幸が、少女達を輕卒な結婚に驅り立てます。或る者達は又、結婚生活を單に物質的な快樂や贅澤や、或は自由や社會的位置を得るための手段だと考へてゐます。しかし本當に献身的愛を知つてゐる女性達の心には、これらの外面的な幸福に對する附屬物は、満足をもたらさないでせう。人生に於ける最も偉大なものは、物質で買ひ得るものではありません。精神的なもののみが満足を得ることの出来る、深い或る物があるのです。

多くの女性達は贅澤をしながら、悲しい生活を送つてゐます。それはその女性達の精神の求めてゐるものが満たされないからです。その女性達は神經質となり、早老となり、屢々、ひどい病氣となります。生々とした或る物がその女性達の生活に缺けてゐるのであり、それは多くの金銭や立派な家や美しい着物をもつてゐるだけでは満たされないものなのです。或る妻はこれらのものを所有してゐるかも知れませんが、しかしその妻は女性の本來の天性である愛や同情やよき男性の奉仕などを求めてゐるので

結婚期に近づいた少女達は次の事を知らねばなりません。即ち男性達は女性の肉體的な魅力によつて急激な愛に陥りやすい事、そしてその様な男性達は精神的、道徳的方面の賞讃から愛する事は出来ない事——これらのことを知らねばなりません。肉體の價値に對する強い魅力は、男女を通じて眞の愛の大事な要素には違ひありません。廣くいへば、女性は男性のうちに精力と強さを求め、男性は女性のうちに美を求めます。併し官能のみから生じた情熱は、決して長續きしません。そこには性質に對する尊敬、道徳的資質に對する賞讃、そして知識的趣味に於ける親和がなければなりません。

女性は美しい男性に魅惑され、その爲にその男性が放蕩者であり、怠け者であり、同情や理解や親切を缺いてゐるといふ事實を見逃す事があります。それ故肉體的の魅力のみでは、無限の愛情の證據にはならないのです。審美的或は官能的魅惑と共に、精神的、靈魂的魅惑がなければなりません。

愛人を得た若い女性は、結婚の承諾を與へる前に、自分が彼を精神と肉體とを以て

眞實に愛してゐるかどうかを確めねばなりません。そして結婚生活の不調和の原因となる様な強い慾望や習慣を持つてゐないかどうかを、確めねばなりません。その少女は彼の小さな缺點や過失は許し、同様に自分の小さな缺點や過失を許して貰ふ事を求めねばなりません。二人の間には、各自の性質の缺點に打ち勝つやうに助け合ふ約束がなければなりません。非常に熱心な戀愛結婚に於ても、日常の小さな腹立たしさが大きな影響を與へ易いものであります。忍耐と分別が養はれねばなりません。

結婚の精神美の多くは、生理的調和に依るところが多い。結婚生活の神聖は、精神と同じ様に肉體の結合であります。我々は肉體的に不快な人を、結婚生活に於て愛する事は出来ません。併し不幸な事には、多くの少女達は肉體の結合に關する本質や、その精神や感情に及ばず影響を十分に理解する事なくして、結婚に入るのであります。最近多くの結婚生活の不幸が、肉體的不一致から來る精神的不調和が原因であることが分つて來ました。そこで、將來の事を考へる妻は、結婚生活の眞實と生殖の法則をよく理解しなければならぬのであります。この知識は、教養ある既婚の友や、科學的な、

が、分り易くこの問題を書いた本によつて得る事が出來ます。

如何なる女性も、それに對する豫備知識なくしては、新しく始める職業を考へる事は出來ません。結婚に對する豫備知識も同様に重要であります。そして我々が、結婚は單に我々自身のみならず、生まるべき子供達や、我々がその中に生活してゐる社會や、來るべき時代に關係のあるものである事を考へれば、健全な結婚生活に對する必要な知識は最も價值高きものであるといつても過言ではないでせう。人間の重大なパネである力の本質を理解する事なく結婚するのは、罪惡ではないとしても、不眞面目と考へねばなりません。

正しく生きようとする意志、或は最も高められた宗教的信念のみでは、我々を結婚生活に於て安全に導いてくれるに十分なものとはいへません。健全な知識に對する慾望は、それ自身の中に、道德的或は宗教的衝動をもつてゐるのです。強い精神的傾向を持つた男女は、足元を照らす光りとして知識を追ひ求めます。我々は深い宗教的な律法を知つてゐます。併し自然の法則に關する知識のない妄信は高貴な生活を保證し、

大きな過失を犯す事を防いでくれません。健全な知識を持った道徳的熱情——これが我々の標語でなければなりません。

今までお話しして来た事は、貴方に、肉體と精神とが互に頼り合ひ、ずつと續けて影響し合ふものであり、離るべからざる事を信じて欲しかったからです。精神の最も美しい花は、肉體の中にその源を持つてをります。頭腦の思想は、最も離れた肉體の器官に使ひを送ります。憐憫は心臓の鼓動を激しくしますし、胃腸は同情によつて動くといふ古い言葉もあります。疲労の毒素によつて汚された頭は、憂鬱な抑へつけられた考へを生みます。頭腦が健康な血で潤つてゐる時は、落膽は消え、疑ひや恐れも去ります。昨日までは悲しい氣持であつた人も、生活は最も楽しいものだと思ふやうになります。

自然の法則によつて、我々は男女の結合が喜びを伴つてゐるものである證據を見出します。これは種族保存の上に、重大な事です。結婚は最も高い幸福の源です。併し人間の愛は非常に複雑なものであります。人間に於けるこの結合の本能の複雑さが、

人間が他の下等な動物と非常に違つてゐる所です。人間に於ては生理的な衝動が精神的な憧憬に従屬してゐる場合が多く、これらの精神的憧憬は純粹に生理的な、或は官能的なものに比べると更に複雑してゐます。が、その精神的憧憬を過度に強めて考へる事は、結婚に於ける不調和の危険を含んでゐます。文明國の男女の精神的機能は非常に繊細に、錯雜になり、混亂し易くなつてゐます。文明は我々の感情的慾望を増加させ、濃くさせ、そして新しいものを造り出してをります。

人間の愛に於て感情的な力が高まつた事は、益、知識によつて導かれ、本能の弄ぶまゝに任せてはならない事を教へてゐます。我々は愛の新鮮な美を保存するために、結婚に對する知識が必要なのです。結婚生活の多くの不幸は、無智が直接の原因です。男性達は女性達の本性と最も深い慾望とを知らず、女性達は男性に對する適當な知識を疎かにしてゐます。妻がよく料理を食べさせてくれれば夫は幸福であり、夫が金錢に對して寛大であれば妻は満足する——これらの事は非常に容易にいへる事です。が我々は日々の經驗によつてうまい料理が多く、の夫達に對する最高の幸福を形造るも

のではなく、物質で買ひ得るあらゆる贅澤をなし得る妻達が、結婚生活に、不満足を味はひつゝある事を知つてゐます。

五、子供達及び少年少女達の性衛生

一

生殖機能の衛生には、身體の各部に對する注意が必要である。適當な設備と運動、健康な衣服、思慮深い食物、そして皮膚の全面の注意深い清潔——これらのものが性衛生にとつて必要である。非衛生な設備の下に雜居する事は生活力を低め、肺病やその他の病氣の原因となる事、又は性的早熟の原因になる事等は廣く知られてゐる。

幼時や少年少女時代の榮養について、十分な科學的知識を持つてゐる両親は極く僅かである。大事に育てられた子供達は過食であり、貧乏な子供達は榮養不良である。過食は多くの子供達にとつて禍である。澤山食べれば食べるほど子供は丈夫になるといふ間違つた考への下に、如何に多くの子供が贅澤な、刺戟的な食物を食べさせられて苦しんでゐる事であらう。男女を通じて過食の子供が非常に多い。彼らは脂肪過多の爲に運動が不活潑であり、それはやがて膽汁質を生み、皮膚の腫物の原因となり、

大人になつてから多くの病氣の素地を造るのである。子供の肉體には脂肪が必要といへ、常に脂肪ばかり食べる事が利益だといふわけではない。

従來、寄宿生活の子供達は、肉體の成育と維持に必要な榮養を十分に與へられなかつた。が、最近に於ては、寄宿の賄は非常に改革されて來た。併しまだ多くの少年達は十分な榮養を受けてゐるとはいへない。一般の健康と同じ様に性の衛生を維持する爲には、幼時及び少年少女時代を通じて、食事は榮養的な、併し過度に贅澤ではないとして刺戟的でないものが與へられねばならぬ。必要以上に多量な肉食は子供達にとつて有害であり、それは屢、發情期に潛伏してゐる性的慾望を煽るものである。過食は青年及び大人に於ても、性衝動を非常に刺戟するものである。

子供達がアルコール類を飲まない様に両親が注意するのは、今更いふ必要もない事である。アルコール類は最も強い性的刺戟である。それは直ちに血管や頭腦に影響し慾望を刺戟するのみならず、統制する力を失はしめる。酒は健康に對する増進劑として、用ひられる事がある。併しアルコール類は子供達にとつて危険極りなきものであ

り、大人達の思慮ある加減の下にのみ用ひられるべきものである。過度のアルコール類は疑ひもなく禁制を犯し、頭腦を鈍くし、淫猥な感情を起さしめる。大酒家の生命の胚種が毒され、病的な子孫を造り出す事にも疑ひはない。痴呆症や癲癇や精神的缺陷やその他の多くの精神的、肉體的疾病は、大酒家の子孫に共通する特徴である。

我々は子供の自然的な、末梢的な性的刺戟を無理に抑壓する事は出来ない。併し我々は、外部的な、或は人工的な刺戟の危険を減らす事は出来る。衣服や毛布等によつて皮膚を過度に暖める事や、餘りに暑い湯に長く入れ過ぎる事や、贅澤な食事や、生殖器官に對する衝擊や、その他色々な贅澤な生活様式は生理的刺戟の要素となる。上流家庭の子供達にあつては、精神的刺戟は更に多い。夜遅く迄起きてゐる事や、過度の興奮や身近の者達から受ける暗示や、猥褻な會話の影響や、野卑な娛樂や、春本春畫の類や、他人に頼りたい何かの心配事や、わざとらしい慎ましやかな躰け等がその原因である。私は殊に最後のものが最も重大な原因だと考へる。

皮膚のほとんど凡ゆる部分は、催春的な氣持を起させる傾向を持つてゐる。この重

大な事實は、少年少女達に關心を持つ人々によつて、よく注意されねばならぬ。餘り可愛がり過ぎる事や、接吻や、ふざけ過ぎること等は避けねばならぬ。限りなき神經を持つてゐる最も感覺的な皮膚は、直接に頭腦と結びついてゐる。ヒステリーの場合には、皮膚の感覺は殊に鋭くなる。人間の最も早い感覺的な喜びは、皮膚から来る。例へば幼時の哺乳の如きである。疑ひもなく、皮膚の刺戟は、最も強い壓倒的な心理的刺戟の原因となる。前額部を摩擦する事は、神經の緊張を生むので、頭腦を使ふ多くの人の習慣となつてゐる。支那では、性的刺戟を起す事を恐れて、父親も娘を接吻する事を控へる。その様な遠慮は必ずしも必要ではないが、多くの思慮深い両親達は子供を愛撫し過ぎる事の危険を知らねばならぬ。

エリスは皮膚と性的機能との聯絡を、顔面の吹出物(にきび)の中に見出してゐる。發情期の少年少女達の顔面によく見受けるにきびは、毛を生えさせようとする皮脂腺の間違つた努力である。一般に、にきびは發情期に生じて、其後徐々になくなつて行くものである。この皮膚の性的傾向は、月經時に於ても表はれ易い。

皮膚の感受性は、くすぐりを喜ぶ子供達に著しく現はれる。くすぐりは、單なる喜びであり、屢々自發的に求められる。それはそれ自身としては病的なものではないが、その衝擊が肉體の生殖器官に與へられる時に、病的となる。優れた醫者ゴアースは、性的行爲は皮膚の反射作用だといつた。或る醫學者は處女のこそばゆい氣持は、性的昂進に對する自然の自衛かも知れないといつた。發情期にくすぐられたい氣持が多くなるのには、恐らく大きな意味があるのであらう。

兎に角、幼時に於ける過度のくすぐりを避ける事は望ましいと、我々は確言する。凡ゆる注意によつて、性的感情は、それが正しき結婚生活によつて満足させられる時迄、平靜にしておくべきである。その時が来るまで、我々は性的刺戟を起さしむる凡ゆるものに對して注意しなければならぬ。昔の禁慾主義者達は、困惑的な慾望を靜めるのに、冷寒が役立つ事をいつてゐる。溫暖は刺戟である。餘りに寒い、或は濕氣のある氣候では、人工的な溫暖をとる事が健康上必要であるが、性の衛生の爲には餘りに暖かく着込む事は避けねばならぬ。

子供達及び少年少女達は、贅澤な羽毛の寢床に寝てはならぬ。上衣はゆるくせねばならぬ。生殖器官を壓迫したり、しめつけたりすることを避けねばならぬ。或る醫師は、幼児の手淫の原因をきついズボンに求めてゐる。きつくしめた帯やコルセットも、少女達に同じ原因を興へてゐるといはれてゐる。極く小さな子供達は、他から注意されるまで、常に自分で局部をいちり續けるのである。この習慣は、きつい衣服や、不潔による局部の衝撃から起るのである。

ノラ・マアチは、少年達の性的感情は、生理的にも心理的にも少女達に比べると、鋭くそして特殊的だといつてゐる。この、少年達と少女達の相異は、両親達や教師達によつて注意されねばならぬ。自然の仕掛けは我々の道德的、そして社會的法則と調和してゐないのである。少年は、彼が種族を作り出すに適當する遙かなる以前から、性的感情を経験する。その故にこそ、少年達とその指導者達とに對して重大な問題が生じるのである。

現代に於ては、結婚期が益、遅れつゝある。若い者達はその間、何によつて解決を得るかといふ事は、衛生學者や倫理學者の緊急問題となつてゐる。我々は唯、長い間獨身生活を送るべく餘儀なくされてゐる人々に、性的衝動の影響を避けるための可能な限りの手段を示すに止まる。そしてそれらの手段は子供の時から行はねばならぬのである。衛生學的、倫理學的教育を始めるのに、早過ぎるといふ事はない。が、その教育は慎重に計畫されねばならぬ。

獨身者の衛生は、殊に系統立たねばならない。我々は、唯純潔を説くのみでは十分でない事を理解し始めた。もつと他の導きを興へねばならぬ。併しそれは、多くの両親達や教師達が、性教育に對して積極的な興味を示さない限り不可能である。教へられない者が、教へる事は出来ぬ。

單に禁慾や統制や抑壓をすゝめる事は、日々の經驗が證明してゐる様に、悲しむべき不十分な効果をしか上げ得ない。我々は少年に向つて色慾が罪惡である事を説き、劣情に對して警告はするが、その片一方に於ては贅澤過ぎる食事や、アルコール類や、羽毛の寢床や、過度の愛撫等によつて性的衝動を煽つてゐるのである。我々は純潔を

説くが、清い肉體に於ける清い精神を維持するための衛生學的教育は與へないのである。我々は自然の研究に對しては沈黙を守り、それに對しては發情期の少年達を抜く道のない所の、色々な社會の腐敗的影響にさらしておくのである。我々は性に關してわざとらしい、羞恥的な考へを抱き、それは子供達の氣持を病的に不審がらせ、屢々こつそりと、秘密の好奇心を生み出さしめるのである。如何にすれば我々は、少年達が自分の性的能力や、種族保存の責任や義務に對する十分な尊敬を以て、大人になる事を期待し得るであらうか？

過度の運動や激し過ぎる遊戯は、筋肉と神經の疲勞を呼び起し、それは却つて睡眠を不秩序にし、性的慾望を起さしめ易いのである。運動の不足は又精力の過剰を生み、それは性的に費消され易い。神經過勞は不眠症の原因となり、手淫は、屢々睡眠を得るために行はれる。猥褻な話を耳にする事は、多くの若い者達に潜在してゐる火を煽る。色慾的な刺戟は多過ぎる。鈍感なものに對して何の効果を持たない話も、他の者には強い刺戟となるであらう。

純潔を守らうとする努力は、或る少年達に於ては非常に苦痛であるが、他の者に竊しては左程ではない。強い精力を持った者には衝動は絶えないが、他の者には單に週期的である。獨身者に衝動の起つた時は、その精力を仕事や遊戯や、その他の興味に集中させ、が、刺戟的でないものに移す様に努力すべきである。性衝動を避けようとする凡ゆる努力は意志の力を強める。そして筋肉と同じやうに、よく訓練された意志は益々強くなる事に疑ひはない。

二

女性の性生活に對する衛生は、文明諸國殊に西歐に於ては、男性よりも等閑視されてゐる。女性の性的本能は、男性の好色の慾望に比較すれば、殊にその感情的心理的方面に於ては微細な衝撃を要求するものとはいへ、獨身生活が長びくといふ事は鋭敏な神經質な女性にも普通の女性にも、相當な困難が伴ふのである。プラツクウエル博士及びその他の婦人科の女醫達は、女性の生活に於て性が最も肝要な役割りを演ず

る事を力説してゐる。

我々は少女が純潔を破つた時の危険を、少年の場合よりも、重大視しない傾向がある。が、性衛生を等閑視する事によつて女性が男性よりも多くの害を受ける事實を、見逃す事は出来ない。女性達の性生活に對する知識は極めて貧弱であり、子宮や卵巢の異常を、それらの機能に對する何らの正しい知識もなくして苦しんでゐるのである。子宮の位置異常や下垂は多くの場合、無意識の不健全な生活や、神經過勞や、妊娠後の適當な休息の忘却等から生ずる。下垂は屢、少女や、未婚の女性達にも起る。この異常から生じる生理的不能や苦痛の外に、その性質に影響を及ぼす精神的現象も伴ふ。その時は神経質になり、いらいらし、怒り易くなり或は憂鬱になる。これらの現象は適當な醫療を施すと、不思議なやうに失くなつて了ふのであるが、何時までもうつちやつておかれると、單に一時的な患者をも家庭生活の悩みとなるやうな女性にしてしまふであらう。

月經異常の多くは、衛生によつて防ぎ得るのである。妊娠の器官は非常に複雑な經過をとるものであり、有害な生活によつてひどく苦痛なものとなる。出産は、結婚生活の前後に於ける不健康な状態によつて一層苦痛となり、時には生命をさへ危くする。母親の授乳にも色々な異常や病氣を持つてゐる。多くの女性達が、子孫を自然な方法で育てる事が出来ないでゐる。時としては乳頭が扁平となり、或は全然存在してゐない場合がある。多くは帯やコルセットでしめつけたのが原因である。驚くべき多數の女性達が母親としての抱擁に加はる事が出来ないでゐる。ストープス博士は、夫達が女性の本性に對して無智であり、その週期的な性的特徴に對する知識を缺いてゐる爲に、七十乃至八十パーセントの妻達が授乳能力に於て不幸を経験してゐるといつてゐる。又多くの女性達は、色々な心理的及び生理的原因の爲に不感症に落ちてゐる。ヴェスキ―はこの種の異常性は凡ゆる家庭に見られるといつてゐる。この不自然な状態は、多くは性に對してわざとらしい慎しみの偏見を興へられた事が原因である。その場合、性教育の缺亡が大きな原因である。間違つた考へが幼時及び少女時代に根深くはひり込み、性の機能に對する嫌惡が、複合觀念に發達したのである。

早産や流産や死産等の多くの場合も、避ける事が出来る。多くの女性達の生殖能力は、餘りに早く續く妊娠によつて過勞となる。勞働階級の母親達の多くは、出産後十分な休息をとる事が出来ない。そこで種族全體の健康が危険にされるのである。多くの過勞が母親達の重大な能力を食ひつくすのである。坐業や榮養不良や新鮮な空氣の缺乏や心配等が、多くの女性達を種族の保存に對する不能者とするのである。貧血や神經衰弱も多くの女性達を、生存競争の不適當者とする。卵巢の病氣は、殊に母としての機能を否定するものである。これらすべてのものは劣性學の原因となり、個人及び社會の平和に對する妨害力となる。これらの主なるものは、全部とはいはなくとも女性の性衛生及び教育の缺乏の結果である。我々の娘達は、肉體のメカニズムやその正しい使ひ方に對する知識、母としての義務に對する理解、性の法則に對する實際的教育、種族的能力及び子供達の養育に對する知識——それらのものによつてこゝらの惡から保護されねばならぬ。娘達は、愛は最も靈感的な個人經驗のみならず、人類の凡ゆる進化の原因である事を教へられねばならぬ。性に對する理想的な態度は倫理的

見解によつてのみならず、興味を吹き込み、永遠の生命力の美と力の不思議を表はす科學的教育によつて養はれねばならぬ。

生理的衛生は、心の健全な衛生による所が多い。その心がわざとらしい慎しみによつて暗くされ好色な考へによつて傷けられてゐる時、少年少女に向つて肉體に對する正しい尊敬を得させる事は出来ないのである。性の問題が羞恥に満ちた秘密な態度で扱はれる時、みだらな幻想や非合理的な尻込みが起るのである。頭腦が健全に働いてゐない時、我々はそれと密接な關係ある機能の健全な働きをも期待する事は出来ない。性に對する間違つた、歪んだ考へは、性の衝動を普通な様子でいひ表はす事を避けしめ、屢、異常や邪慾に導くのである。それ故、健全な精神の衛生は、幼時からその一生を通じて必要なのである。

六、生理學

二一〇

一
若い者を教育する両親達や教師達に對しても、生殖の器官の構造と作用に對する知識が必要である。發情期以前の子供達に向つて、純粹の解剖學上の知識を與へる事は必ずしも必要でない。が、生理的知識なくしては衛生上の注意を十分に與へる事は不可能である。結婚期の息子及び娘を持つ両親達は、性的經過に對する質問に答へる事が出来なければならぬ。肉體の健康は榮養と同じやうに正しい性の作用による所が多い以上、生殖作用の生理學を一般の生理學から引き放す事は不可能である。我々は生理的知識なくして、性愛の心理的要素を説明する事は出来ない。

アミーバの様な劣等な有機體にあつては、生殖は顯微鏡的な原形質が正半分に分裂する事によつて行はれる。動物界の、人間のはるかなる以前の祖先達は、一細胞の分裂や分體や、芽體の生成によつてその數を増す。性の區別が生じてからは、偉大な革

命的進化が行はれる。男女の細胞の子孫は、各自の両親達の素質を受け継ぎ、知識の進歩や、構造の複雑や、個人の多様性が生じる。かくして、二つの違つた細胞の相互間の魅力が、精神的進歩や擴大の源である。生殖の過程は、精神的影響と密接に聯絡し、實際にそれに左右される。多の微細な精神的、感情的な力が性愛の中にはひつて来る。性愛は既に機械的な交接作用ではなくなるのである。

男性の精蟲の、女性の卵子に對する魅力は、人間の愛に於ける生物學的な、最初の源である。頭腦は、人間の喜びや悲しみに對して強い力をもつこの情熱に、支配されるのである。人間の進化は、人間を他の獸類と區別する所の複雑な性の進化に負ふ所が莫大である。

胎兒に於ける性別は、受胎後十週間に識別し得る。誕生後、性の諸器官はまだ成熟せず、少女に於ては約十四歳、少年に於ては約十五歳の發情期が到達するまで未熟のままであるのである。男性に於ては、その中に生命の胚種をふくんでゐる睪丸は鼠蹊部にあり、發情期が來ると、陰囊となつて垂れるのである。兩性の外部の生殖器官

の組織には、血液が豊富に供給されてゐる。交接（性的結合）の場合には、血管が充血し、必要な腫脹の状態をもたらすのである。

精蟲は睪丸内の小管の中にふくまれ、性行爲に於て射出されるのである。活潑な、豊かな細胞は、女性の腔の中に射出される液體の中にある。精蟲が子宮の卵巣の中の成熟した卵子と出合ふと、受胎が起る。卵子（女性の生殖細胞）の形も微少だが、精蟲（男性の生殖細胞）は更に遙かに微少である。精蟲は非常に活動的であり、卵子を本能的に探し求めるといつていゝであらう。昔の生理學者は、精蟲は「蟲」だと信じてゐた。

卵子は卵胞といふ小囊の中にふくまれてゐる。卵胞は纖維質であり、その中に液體をもち本當の卵子を圍繞してゐる細胞で内面を蔽はれてゐる。卵子は卵狀を呈し、直徑約十分の一吋であり、成熟すると稍大きくなる。卵子は喇叭管により子宮に運ばれる。

子宮は非常に膨張性のある囊であり、いろ／＼な腺をもつてゐる。發情期になると分泌腺は増加し、月經時には伸長する。肉體の外部から子宮に達する道は、鞘の意味

である腔といふ言葉で呼ばれてゐる。腔は粘液腺を有し、神経の綱が張られてゐる。子宮の口は、腔の上部にある。

左右の乳は、分泌腺や大小の脈管や油とミルクの小球を形作る細胞を給せられてゐる。發情期になると、乳は大きさを増し、妊娠授乳の時期には更に大きくなる。老年になると萎み、その固さと圓さを失ふ。

週期的な月經は、太陰月に一ど起る女性の性的な法則的なリズムである。それは妊娠に對する準備であり、一ヶ月一度の子宮内の膜質組織の放棄であり、或る種の内部的改新を意味するものであることが、或る醫學者達によつて確かめられた。その期間中に、卵子は子宮内に來たり、授精を待つのである。授精のなかつた時には、卵子は自ら消滅する。月經の眞に正確な生理的原因については、まだ多少の疑問がある。卵子の成熟のみでは、まだ十分な理由とはいひ難いのである。排卵は常に絶えない活動であり、誕生前にも見られるからである。その上、卵巣を取り除いても、この毎月作用に影響しないからである。卵巣や喇叭管がなくつても、月經はある。そして卵巣

が完全な常態にあり、排卵が起つても、月経のない時があるからである。

月経は昔から超自然的な現象だと考へられて来た。この自然の現象に關する禁忌や迷信は數限りなくある。或る未開人や半未開人達では、この週期が非常に長い時日を經てやつて来る。エスキモやアメリカ印度や南アメリカやラブランドの諸種族に見る所である。これに反してヨーロッパ人の間では、二週間に一ど月経が来る例が多い。この週期的な自然現象は、今日も文明諸國に於て十分な注意を拂はれてゐない。そのために、結婚生活の不幸や不調和の例を夥しく生んでゐる。

進化が高くなればなる程、月経の度数が多くなり、量も多くなる傾向のあることは明らかなやうである。人工的な生活様式や多くの刺戟によつて、この作用が頻繁になつたといふ意見があるが、高等な猿の或るものも月に一回の月経を知つてゐるのである。月経の期間が永びくと、繊細な少女の發育が止まると考へられてゐた事もあるし、フオセギル博士はこの消耗を止めることが出来たら、肉體の發育は更に進むだらうといつた。

月経が連続的な經過である限り、我々は少女達には少年達より異つた養育が必要だといふ事を知らねばならない。生殖に於て、女性は自然に非常に困難な役割を演ずるやうになつてゐる。女性は、母たる職能を行ふために永遠に準備をしてゐるといへるであらう。月経のはじまる發情期から終る閉止期まで、多くの生理的・心理的變化がくり返され、全存在に影響を與へる。エリスはいつた、「我々が男性及び女性の機能を科學的實驗によつて比較して見る時、女性の生活は曲線を描いてをり、與へられた時間に於けるその曲線上の正確な位置が、女性の男性に對する優越と劣等とを作り出すことを認めざるを得ない」と。

ホルモンと名づけられた内分泌は、生理的及び心理的性生活において最も重大なものである。男性の陰囊の腺細胞から分泌される液體は、肉體の成長に影響し、次等的な性的特徴を決定する。これらの腺は、生殖機能が出来上る前から作用する。それは大部分、肉體の構造の深さや精神の男らしさの源となる。そしてその分泌は、頭腦に色慾の刺戟をもたらすのである。女性の卵巢に於ける同様の分泌は、精神と肉體とに

同様の影響をもたらす。男女両性に於けるこれらのホルモン分泌の散布が、結合の本能を生ぜしめ、次等的な性的特徴を附せしめる事には疑ひがない。實驗は、これらの注意すべき腺からの分泌物を注入すると、ホルモンの不足を告げてゐる人々に著しい變化的な影響を與へる事を證明してゐる。

七、性の精神病理學

一

性的本能は、その力や複雑さやいろいろな反動のために、病的な、異常な、邪慾的なものになり勝ちである。その完全な常態といふものは、常に規定し難い。性の本能の強き者或は弱き者によつて、個人的に我々はいろいろな異常性を見出だす。ロムプロゾウは、女性達の性的興奮は常に病理學的だといつたし、多くの生理學者達は、女性の不感症或は冷淡の傾向を、神経官能症状と規定してゐる。古代の禁慾主義者達は愛の衝動を精神の病的状態の結果とした。多くの未開人達は、普通の生理的状态に於ける性交をも健康に對して危険なものと考へてゐる。

近代の治療學の研究は、性的邪慾の神秘を説明してゐる。性生活に於けるこれらの現象の或る物は、人類史の早期に於ける種々な思ひ出の反響であり、他の或る物は幼時の奇妙な記憶と聯關してゐる。マソヒズム、即ち苦痛を性的刺戟又は満足として享

樂するものは受動的であり、幼児達に體刑を加へる事から生じたものであらう。サヂズムは能動的であり、より活潑な性である男性の力を保存し、強めようとする本能が誇張されて残存してゐるものであらう。多少の程度に於て女性達の多くは、その受動性と同様に苦痛を堪へ忍ぶ痕跡をもつてゐるものであるといひ得よう。そして女性達の受他主義は、屢、男性達の精力と利己主義とに對應する。この受動性は、或る衝撃を受けるると自ら暴力を求め又は苦痛を喜ぶ傾向に變化するものである。男性の自然的な激烈さは、多少の程度はあるが苦痛を相手に與へようとする慾望に變化するものである。極端な場合になると、サヂズムはひどく残酷な所行や殺人をさへ犯す。この種の邪慾は、血を流したいといふマニアと屢、結びついてゐる。

若い者達を導くために十分な用意をしようと思へば、我々は性の病的な心理に對しても無智である事は出來ない。性的異常は普通の者にはないといつてはをられない。それは文明國未開國を問はず、非常に多いのである。性本能の異常性は、人類の最も高き者にも低き者にも、天才にも未開人にも通じて見る事が出來るのである。

家畜も屢、性的異常性を發達させてゐる事がある。

少年達の可成の大部分が、仲間達や獸類に對して多少の残酷性を示してゐる。そしてこの同情の缺乏は、發情期以後よりも以前に於て著しい場合が多い。心理的成長がはじまると、憐憫と親切は屢、深くなるものである。もし少年達が特に相手に對して憤怒する理由もなく、苦痛を與へてやらうとする普通以上の傾向を示したら、我々はその少年をサヂズムの傾向を存する者と見る理由が十分にあるのである。が、よく注意して、極く小さい子供に屢、見受けられる無思慮の中に、無智の中に、苦痛を負はせようとする傾向と、工夫され、考へられた残酷な所行とを區別しなければならぬ。動物の身體に亂暴したり、毀損させたりする事は、疑ひもなく性的異常性と結びついてゐる。このやうな場合は、新聞の三面記事にもよく見受けられる所である。その友人達も、日頃は非常に健全に見える少年が、何故そんな事をしたか、理由を發見することが出來ないものである。

性的異常が本當の、そして一定の邪慾の形をとる時、その人間が他人に危害を與へ

るかも知れない重大な危険がある。病的な脅迫観念に襲はれて、性的異常者がおそるべき残虐を犯す例は無数である。文明諸國のあらゆる邪慾的な、罪惡的な一面には、性的異常者に秘密の満足と與へる醜惡な設備をした場所が多い。多くの醫師や病理學者や精神病學者達によつて蒐集された所の、性的異常者達が各自の満足を得るために凝らしたいろ／＼な驚くべき工夫に關する文献は夥しい。

歪められた本能は、幼時及び少年少女時の注意深い教育、性衝動の純化、そして衛生と興味の淨化によつて抑へる事が出來よう。催眠術は多くの精神病醫達に用ひられて成功してゐる。心理分析學による療法は、更に効果的であらうとしてゐる。教師、立法家、醫師等は、フロイドその他の心理分析派の著作と親しむことが必要であらう。

性的邪慾はいろ／＼な段階に於て、野卑な戲談や噂をくり返す頑固な習慣や、女性に猥褻な無署名の手紙を書くことや、畫や寫眞の蒐集などの中に現はれる。これらの事によつて或る人々は、「代りの満足」を得るのであり、それは本能の普通の代用となるのである。

るのである。街頭で女性の頭髮をきるといふやうな耽溺的なマニアは、性衝動の犯す悪戯である。大人の男性及び少年達の露出的な性癖も、普通の邪慾の苦惱から來る型である。

性本能の異常心理に對する研究は、窃盜狂をも性的邪慾と見なす。窃盜狂達の自白によると、或る物品を盗み出す瞬間に性的快感を覚え、その冒險的興味は快感を倍加させるのである。拜物狂も一般的な性的異常である。この場合は興味の焦點が、執心してゐる相手の肉體から衣服、殊に靴に移動するのである。

性的感情が異常性に傾かないやうに警戒するのは、兩親及び教師の最も重要な仕事である。若い者達に責任をもつてゐる人々は、全然無意識の中に邪慾や異常性を養はしめてゐる事がある。わざとらしい慎しみや性に對する輕蔑は、女性達の病的な冷淡さの原因となるであらう。愛や性的關係に對する無遠慮な、野卑な會話は、若い者達の好色的な傾向を刺戟し、それは後年の邪慾的な行爲の原因となり易い。

性的逆轉の例はますます増加する傾向にある。この人性の困難な謎に對して數言を費しておく事は必要であらう。青春期及び大人の時代に愛情及び慾望が異性に對して向けられるのは、性的本能の發達の極めて常態的な場合である。が、同性の相手によつて感情なり衝動なりが催される場合は、性的逆轉である。逆轉的な本能をもつて生れた男女達の數は多い。男性の典型的な逆轉症の例は、社會の上流下流を通じてあらゆる階級の中に發見される。

性的逆轉症は忽せに出來ない存在である。それは失天的な傾向のものではあるが、アルコール中毒や善惡に對する不完全な識別力を遺傳された人々と同じやうに、社會の法則を適用して取り締らねばならぬ。

この書に於ては、性的逆轉症が個人及び社會に及ぼすいろ／＼な影響を一つ一つ取り上げてゐる暇はない。が發情期に於て一時的に現はれることが決して稀ではないこ

の邪慾の現はれについて、數言を費しておく事は必要であらう。我々は、この困難な問題と闘つてゐる多くの教師達や兩親達を見逃すことは出來ない。或る學校内に於ける、明らかに書き得ないやうな實例の噂は、注意深い兩親達の耳にも達してゐよう。

エ・シ・ペーコン氏は經驗ある教育家であるが、いかなる少年も學校生活中を通じて全然性的に無邪氣であることは出來ないといつてゐる、少年が兩親にも打ち明け難い、單純ではあるが、胸の高鳴りを堪へ忍ばせてゐることを耳にする事が多い。同性愛の傾向は、少女達の間にも同様に著しい。異常な程度に感情の濃い友情の例は、女學校に於ては普通に見られることである。

ミス・エル・フェイフルはいつてゐる。「學校友達や先生達に對する愛情を統制し感情的な言葉を慎しむ事を少女達に教へるのは、教師達の最も重要な仕事である……殊に上級生に對する訓話の中に、友情關係に於ける慎しみと自制、及び少女達の前に控へてゐる正しい愛と結婚との可能性とについて、率直に話す事を忘れてはならぬ。」同性の若い者達の間の一時的な親密が、強い感情的な魅惑となり、時には性的意味

をもつて来る事、及び少年少女達の同性の年上の者達に對する崇拜的な、そして情熱的な執着となる事を、多くの心理學者達は證明してゐる。世の兩親達はこの事實を忽せにしてはならない。發情期に於て或はその以前に於て、最初の奇妙な力強い愛の感情が現はれ、熱烈な感動が「戀愛」となるのは、屢、同性に對してであるといふことは事實である。が、その多くの場合には、恐らく一定の、特別な生理的覺醒はないであらう。

異性から完全に隔絶せしめてゐる學校生活が、強い愛情を同性の上に一時的に凝結させる事の大きな原因であるには疑ひがない。この一時的感傷的の現象は、學校生活の少年少年達に共通の代用愛の普通の例である。鋭く目覺めはじめた感情は、漠然と反應と満足とを求める。少年少年達が學校生活を終へ、自由に異性達とまじはるやうになると、その感情は急激に常態をとりはじめ、熱心に異性の上に向けられるのである。

この問題を注意深く考へて、私は最近の心理學の結論が正しいことを信ぜざるを得ない。逆轉の一時的な感情は、現代の若い者達の性的隔絶の制度下に於ては免れ得ないものであり、やがて兩性の強制的な隔離がなくなつても生ずるやうになるであらう。愛の本能はその發芽期に於ては、屢、半意識的に表現と満足とを手探りするものである。愛し愛されたい憧憬は少年少女の胸の中にひそんでゐても、異性に對してはまだ何の感情もない場合があるであらう。この場合には、それ故に本當に意識的な逆轉官能も未だ十分に發達してゐないし、著しくもないのである。

三

幼児及び少年少女達の一時的な、漠然とした逆轉的傾向は、性的非行の實驗や大人や上級生達の示す實例を通じて次第に著しくなるのである。各個人の性的本質は千差萬様であるのが普通であり、いろ／＼な暗示や實例が若い者達に異常の傾向をもたらすのである。では我々はいかにして、若い者達が形態的な習慣を得ることを防げばいいか？ 我々は先づ、性に對する尊敬と、彷徨的な性の力を統制する必要とをよく教へこむことに努力せねばならぬ。常態こそ唯一の健康であり、自然と社會とに對する

利益であることを教へこまねばならぬ。異常な習慣は恐るべき殘虐行爲になり易いことを教へこまねばならぬ。

この問題には又、道徳的見解も伴ふ。友達に逆轉的傾向を注入する少年は、社會的な不名譽の原因となり、純潔に對する我々の闘争を複雑にするであらう。我々は若い者達に、この危険に對する警告を最もよく注意して與へねばならぬ。それは單に逆轉的傾向や邪慾に對する注意のみならず、生命力を玩弄することに對する注告と警戒とでなければならぬ。逆轉的傾向が顯著になつた場合は、その少年或は少女は即時經驗ある心理病學者の治療を受けねばならぬ。

長い間、性的放縱と病的傾向は、人類の間に蔓延した。これらの惡徳の或る物はいろいろな不調和や未開時代の遺物が原因であり、やがて進化が一掃してくれるであらう。衰頹の理論が多く行はれてゐるにもかゝらず、人類はますます繁榮してゐる。そこには常に退化的、惡化的経過と闘つてゐる強い自然力があるのであり、人類の経路は常に向上的であることを證明してゐる多くのものがあるのだ。古い病氣は解決さ

れ消滅してゆくが、新しい病氣が代つて現はれてゐる。が、人間の知識は徐々に改革され、衛生學及び治療學はますます進展しつつある。我々が自然の法則を理解すればする程、社會的、倫理的、生理的衰頹の危険に對してますますよく自衛し得るであらう。

性心理學者は人間進化の過去を振り返り、現在の性問題に關するいろ／＼な現象を見る時、我々が向上しつつあり、徐々にではあるが過去の氣まぐれな遺産と對立する科學的な、正しい思索を打ち樹てつゝある事を疑はないであらう。

第三章 教育の諸要素

一、家庭に於ける教育

「母親の膝の上で」教へられるいろ／＼な事は、子供の頭に深い印象を残すものである。三歳頃から九歳頃に至るまでの柔らかい頭は非常に感受力が強く、記憶力も強い。この時期に教へられた事は一生涯を通じて消え難く、思想を色づけ、道徳的行爲を刺戟する。

性の發達に於ては、一定の週期がある。第一の週期は、既に生れたばかりの赤ん坊の意識からはじまるといひ得よう。この幼稚な時期に於ては、自然的な性の現はれが起らう／＼としてゐる。小さい子供の性的感情は潜在意識的であり、幼兒の頭腦の中には生理的衝動の意味に對する何らの知識も存在してゐない。が、自己満足即ち自家

遂情は、三歳以前の男女の幼児達の多くの場合に見ることが出来る。これらの幼稚な経験は、一生涯を通じて反響し勝ちである。現代の心理分析學者達は、幼児の潜在意識下の種族本能は、両親達や年長者達の不適當な注意や無智な愛撫によつて高められると確言してゐる。早熟を煽り易い一切の刺戟を避けることが必要である。両親達や教師達の重要な参考となるやうな、幼時の性的機關が活動にうつつた實際的な實例は多いであらう。

發情期の遙か前の少年が、性的機關と關聯した喜びの感情を経験することは多い。木によち上つたり、ぶら下つたり、乗馬したり、その他の機械的な原因によつてそのやうな感情が生ずる場合がある。といつても體育が多くの場合、性的興奮を起さしめると考へてはならない。寧ろ事實はその反對である。が、或る特別な場合に於ては、意外な困惑的な感情を生せしめる事がある。我々は、六歳の少女がはじめて性的機關と關係のある意外な感情を経験したからといつて、機械體操を禁ずることをしてはならない。他の大部分の子供達には、機械體操は決してそんな影響を與へることはない

のである。しかし両親達が、多くの子供達がそのやうな経験をもつ可能性があるといふ事を知つておくことは必要である。轉ばぬ先の杖といふことがある。

あまり暖かすぎる寢床に寝ることは、少年少女の性神経を早く刺戟する事が多い。屢、性機關の血管が鬱積し、腫張に導くことがある。これは極めて健康な子供達の場合に多く、しかも何らの性的な考へもなく起るのである。暖かすぎる入湯、刺戟的な食物、膀胱の充満、悪ふざけ等がその原因である。このやうな生理的現象は注意をその機關に向けしめ、やがてはそれを喜ぶに至らしめるのである。このやうにして手淫の習慣は屢、何らの性に關する暗示もない子供達に起るのである。

両親達は、自家遂情の範圍が非常に廣いといふ事を知らねばならない。手淫はその多くの現象の中の一つの型にすぎない。性の組織は非常に複雑であり、明らかに何らの關係もないやうな神経や機關も催春的な中心となることがあるのである。肉體の殆んどあらゆる部分の皮膚に與へられた官能は、頭腦に使ひを送り、動搖を起さしめる。眼さへも、ある刺戟によると性的機能に對する強い共感を起さしめるといはれてゐる。

このやうな影響の場合は異常的であるが、とに角催春的な原因となる部面は、性的機關より遠く離れた肉體のあらゆる部分に存在してゐるのが普通である。胃腸の中のものも排出するのを嫌がり、それが頑固な便秘の原因となるのは多くの子供達に見受けられる所であるが、これも自家遂情の満足の一つの型だといはれてゐる。

最も強い性的感受力のあるのは、唇や陰莖や膣などの粘膜であるが、これらの最も感受力の強い部分は全面的な神経の網によつて、他の強い諸機關や頭腦と連がつてゐる。「心臓をもつて愛する」といふやうな言葉があるし、ずつと昔は肝臓が性的情熱の源泉地と考へられてゐた。考へ深い人は誰でも、愛の衝動が有機體の最も奥の神経におそるべき衝撃を與へることを否定しないであらう。愛情のこもつた強い接吻は、最も深い感情を動かすと同時に、肉體を感電させる。愛は精神の、同時に肉體の大なる神秘を示す。

種族保存に關する一切の自然の法則を知る事は兩親達の義務である。兩親達は、性は幼年期から老衰期に至るまで決して眠つてゐる時がない事を知らねばならぬ。種族

の維持に對する自然の熱心は非常に強いものであり、そのために生殖を助けるための無限の複雑な工夫を凝らしてゐる。性は又、單に地上の充實の手段のみではない。生殖細胞は同時に肉體の成長にいろ／＼な作用を及ぼすものである。種族を形作る分泌物は、男女兩性の結合を形作る。卵巢を無力にされた女性は、そのあらゆる生理的組織や腦髓や感情的理智的方面に影響を現はす。去勢された男性は、肉體的精神的そして道德的變化を現はす。女性に分泌腺からの抽出物を服用させると、出産を促したり軽くしたりいろ／＼な著しい影響を見せる。首にある甲状腺からの分泌物は、屢々その人の一生の運命を支配する。この器官の混亂は、甲状腺腫の原因となる。甲状腺が月經時に大きな影響を及ぼす事は明白であらう。

肉體の最も遠い部分をも性が支配し、同時に意識的或は潛在意識的な最も深い精神の部分をも性が支配してゐる事は、科學によつて明らかにされた人間の深遠な事實である。我々は生殖細胞の活動力を、肉體の他の一般的な活動力と遊離したものと考へる事は出来ない。性の力の減退は、頭腦の生産力にも大きな影響を及ぼす。性の力こ

そは、智力の能率と能力との要素である。性の機能が正しく、健康に行はれてゐる時、有機體の全機構の調和的な働きが行はれてゐる。

幼時及び少年時に於て、兩親の注意が殊に重要である事は明らかである。自然的な性の衝動は不可避的なものである事が理解されたならば、子供達の幸福に關心をもつ人々は、食物の有害な刺戟や、官能力の強い子供達に早熟な興奮を起し易い遊戯などを避けることに努めるべきであらう。夜おそくまで起きてゐる事や興奮させすぎる事も避けねばならぬ。都會の生活には、子供の早熟の原因となる多くの傾向がある。すべての子供達がその生活の大部分を田園で送り、出來得る限り戸外で遊ぶことが出来るやうになつたら、非常にいゝであらう。

手淫の危険が注意されねばならぬ。外部の性的機關に刺戟される事によつて子供達はこの習慣を、過度に行ふやうになる。陰莖の腺からの分泌物は、龜頭垢脂となつてたまる。それが包皮の下に強い搔痒感を起させるのである。この事實をよく理解し、局部を清潔にさせておく注意が肝要である。少年も少女も局部に手を觸れ、摩擦する

ことをし易いものであり、その時衝撃を感じるのである。これは重大な問題であり、子供達にも赤裸々に話さねばならない。陽皮又は陰唇の切断は衝撃の機會を少くし、寢小便をも止めるといはれてゐる。或は又少年達の包皮を龜頭の下に押し返させる癖をつけると、悪習慣の機會が少くなると考へられ、若干の兩親達は醫學的理由によつて子供達にそれを實行してゐる。が、一部の意見では、これは却て危険であるとされてゐる。機關にそのやうな工夫を加へることは却て猥褻な感情を引き起し、手淫の原因となるといはれてゐる。ヴェスキイは、それは却て豫防しようとするものを助長するものだといつて非難してゐる。が、とに角男女をとはず子供達の外部的な局部を、規則正しく洗ふことは必要である。子供達の過剰な注意がその機關に集中しないやうに、警戒することが必要である。

自然な、自働的な性感情の勃起と共に、自家遂情的満足の原因となる多くの外部からの刺戟がある。友人によつて悪い例を見覚えるのが一般的な場合である。召使ひ達も時々、極く小さい幼児を玩弄することによつて悪習を教へる。下層階級の無智な母親

達は、むづかる子供達を静かにさせるために自ら悪習を行はせる。贅澤な過食も衝動を早めるであらう。生殖器の周囲を強く締めつける衣服も、衝撃と充血の原因となる。寝る時に重すぎる夜具をかけることも、血液を器官の方に送り、擾亂を起させる原因となる。暗示的な會話も、殊に利巧な子供達に對して避けねばならぬ。

少女達も少女達と同様に、陰核や陰門に生ずる衝撃によつて自家遂情の習慣を得易い。歐米でコルセットを早くからつけさせることは、早熟の原因となる。きついコルセットと性的過敏症との相互關係は、既にあらゆる方面に於て疑ひない事實である。少女達の衣服は、出來得る限りゆるやかにしなければならぬ理由は、無限に存在してゐる。

二

子供の、性がまだ眠り隠れてゐる様に見える時代に續いて、漠然たる、あるかなきかの好奇心や自家遂情的現象が訪れる。これは遊び盛りの時代で、他の多くの興味や

活動が、健康な子供達の精力を喰ひつくす時代である。その時には凡ゆる性的感情に對して、子供は強い拒否を見せるかも知れない。男の子供達は女の友達を嫌がり始め、女の子供達は男の友達の事を輕蔑して話す。男の子供達は女の影響を逃れようとつとめるかの如く見える。女の兄弟達をいぢめ、母親の愛撫を嫌がる。母親の膝の上に抱かれる事を避け、兩親の言ひつけをさへ憎む傾向を見せる。この發情期前期に於て男の子供にも女の子供にも「扱ひにくい」調子が生ずるのである。子供達は「手に合はなく」なり、氣むづかしくなる。

この時代の特徴は、あらゆることに對して活動的になるといふ事である。遊戲は非常に激しくなり、屢、過勞に終る。幼時の凡ゆる束縛をふり棄てようとする慾望が現はれる。子供は大きな少年、或は少女と考へられる事を喜ぶ。既に發情期に達した所の仲間達の未熟な感情は、九つから十二歳迄の子供達によつて冷笑される。愛や感傷に對する暗示ほど、少年を困らせるものはない。愛人に關する色々な話はひどく排斥される。ゲームやスポーツや、心の躍る様な冒險に對する渴望や、遊戲に對する發達し

た趣味等が子供達の心を捉へる。

この時期に於ては、生殖細胞の不活潑といふ事が、栄養細胞即ち肉體の成長にとつても必要なことは明らかである。肉體の成長は迅速であり、食慾は殆んど止まる所を知らない。肉體は十分な栄養を要求し、そこには生理的精力の莫大な消費がある。この時期には性的相異に對する能動的な意識こそないが、色々な印象や影響は潜在意識下に残るのである。それらの印象や影響は、發情期が近づいて來ると色々な奇妙な形で目ざめるのである。その時期は非常に重要である。性が眠つてゐるらしく見える間にも、偉大なる發情期に對する確固たる徐々たる準備が行はれてゐるのである。

性が眠つてゐる間の少女の生活は、少年のそれと變らないのが普通である。少女は旺盛な筋肉を表はす事はないが、跳ねたり飛んだりする遊びを好む。普通の場合に於ては、その性的意識は眠つてゐる。が、少女は人形に對して矢鱈と色んな心づかひをしたり、友達の婚約や結婚に對して優しい興味を表はす。少女は少年と同じ様に亂暴な駆けつこや遊びを好む。が、兄弟達の亂暴な遊戯は自分達にとつて適當なものでない

といふ事を氣づいてゐるのが普通である。少女の心と肉體は少年達よりも迅速に發達するので、少女は二つも年上の少年より「ませてゐる」のが普通である。少女は兄弟達に比べると脂肪は豊富に貯へてゐるが、筋肉は少ない。少女の粗暴な運動に對する興味は、屢々その生理的能力以上に超過する。その時少女は貧血になり易い、或は萎黄病になり易い。少女の感情的な方面は少年よりも著しい。少女は泣くのも早いし、慈愛を示すことも深いし、腹を立てることも多い。これらの傾向は家庭及び學校に於ける因習的な躰けによつて一層助長される。

三

發情期の危機は、青春期に續く肉體の内部的そして外部的變化に促されて生じる。性の目覺めは、心理的精神的成熟を伴ふ。この時期は、男女共に成年期に對する見習ひといふ事が出來よう。これは不思議と夢と憧れと移り氣と成長と變化との時代である。少年に於ては約十五歳から、少女に於ては約十四歳からこの時期は始まる。二十

歳になると少年を成年に達したといひ、十八歳になると少女を若き女と見なす。

發情期は成熟への旅であり、性的感情に對する新しき能力と種族保存に對する力とによつて特徴づけられる。骨組に或る變化が表はれる。神秘的胸腺は失くなる。咽喉は發達し聲變りがする。身體の各部分に毛が生える。生殖器が發達する。人間の種子が睪丸のうちに形造られ始め、その分泌は肉體の成長と生殖機能の維持との二重の役割を果す。肉體に於けるこの代謝作用に於ける變化は、頭腦及び感情に大きな影響を及ぼす。内分泌が血液とまじつて、男性及び女性の精神を生せしめる。それらのホルモンは、愛を目覺めさせる。その活動によつて、光榮ある開花期、即ち性愛や父性愛及び母性愛を生せしめる。粘液の活動が弱いと、性の發達も弱いといふ事が發見された。甲狀腺の病氣が性的機關の萎縮の原因となる。性の成熟は副腎の狀體と關係がある。發情及び肉體の成長は恐らく副腎と聯絡があるものであらう。女性の卵巢からは肉體の一般的な健康に對する機能及び發情期に於ける大きな變化に對して重要な液體が分泌される。睪丸からのホルモンには、若い時代の骨格の發達に對する決定的な影

響が含まれてゐる。頭腦の外皮と生殖器とは互に影響し合ふものである。かくして肉體の全組織が性愛と生殖の中に含まれてゐるといふ事に對して、もはや疑ひがあらうか？

我々は、多情の女性即ち性的に強い女性は、卵巢からの分泌物が自由である爲であり、多淫の精力的な男性は、睪丸からの分泌が豊富である事にその性質を負つてゐるといふ事を知つてゐる。そこで少くとも我々は、強い性の力は、それ自身に於ては決して道德的劣等の表はれではなく、極めて自然的な現象である事を知らねばならない。そしてそれを知る事は、自然からその様な力を恵まれた人々にとつて、生得の慾望と性道德の規準との争闘には理性と覺醒とを以て臨まねばならぬといふ事に對する指示となるだらう。我々はかくして困難な性倫理の問題に於ける基礎を形作り、その異常を以て我々を困惑せしめる人々に對する態度を調和せしめる事が出来るのである。

發情期に伴ふ性的興奮は、屢、計畫的な意志や自發的な動機と聯絡してゐない場合が多い。その様な興奮は、全然何も知らない幼兒にも起り得る。發情期に於ては、性

機關内に於ける分泌物が貯蔵され、頭腦に於てホルモンがどよめくために、若い者を屢、無意識の裡に新しき憧憬に走らせるのである。同じ事は少女にも起る。これらの性衝動は意志と無関係である。それはサタシの聲ではなく、自然の鼓舞である。その鼓舞がサタシ的な結果に走らせる事があるといふ事は、眞實である。併しその鼓舞を避ける事は不可能である。

この生理的衝動は、好色的な性格が故意に生せしめる興奮とは違つたものである。生理的な衝撃がなくとも、即ち卵巢に缺陷を有する女性や不能の男性にも、衝動を生せしめる事は出来る。精液の過剰が頭腦に使ひを送り、衝動を生せしめると同じやうに、頭腦の中に起つた考へが逆に性機關に使ひを送るのである。が、心理的な原因を與へても、性神経がそれに對して應答を與へない場合がある。この様な時に性的異状や冷淡や神経衰弱症が生ずるのである。

睡眠中に精液が出る事は、多くの眞面目な青年達をひどく驚かせるものであるが、それは極めて自然的な現象なのである。晝間に性的な幻想を浮べるために猥褻な夢を

見る事が、屢、その原因であらう。が、多くの場合それは求めざる、歓迎されざる現象である。晝間に計畫的な自己興奮を起させるのは、これと違つた場合である。この場合には行爲は意志的であり、思慮によつて決定されてゐる。

人間が多淫に對して統制する事は、社會の安寧と平安のために必要である。禁慾の力は、立派な人々に於ては高く發達してゐる。頭腦の低い人々は屢、統制力に於ても劣等であり、狂的な場合は全然缺如してゐる場合が多い。適當な禁慾の必要は、本能が強く、早熟で、容易に動かされ易い若者達に強く印象づけねばならない。

それ故に、青年が性衝動に於ける生理と心理の相互關係を理解する事が必要である。そしてその必要は、正しい時機に生理學の明快なる教育を肝要とさせる。衛生上の注意は、内部から生ずる衝動と關係して與へらるべきである。例へば膀胱が一杯になると性器官の充血を起さしめ易い事、そしてその刺戟は自然の常態的な鼓舞ではない事を教へねばならぬ。或は又性器官の腫張の原因となる姿勢、例へばうつむきに寝るといふ様な事である。着物を強くしめる事もその一例であり、性器官を鋭敏にさせる。

心理的な原因に對しても考へられねばならぬ。興奮し易い若者達は、官能的な繪畫や文學に凝り、多淫的な幻想を興へられる事を避けねばならぬ。或る若い男性或は女性に對しては全然無害なものでも、他の者に對しては有害であり得る。賢明な両親及び教師は、各自の性向の相異を理解し、あらゆる方面に於てその審美的趣味を正しく導く様に努力しなければならぬ。その導き方はわざとらしい慎しみの香ひを帯びたり、或ひは峻烈な、不定な態度をもつてされてはならぬ。多くの不道德が、嚴格すぎる事や或は頑迷な叱責のために却て導き出される。

青年男女の自由な社會的交際は、危険に對する豫防となり得る。兩性が隔離されてゐる事は病的な状態を養ひ、性的好奇心を高め、渴望を激しくする。若い男女間の友情は奨励さるべきである。極く若い間の愛はたとへ意識されなくとも統制と高められた影響とを伴ふものである。若い者達には、兩性を惹きつけあふ情熱を精神化し、理想化し合ふ傾向がある。そして強い官能的な要素は眠つてゐるものである。結婚前に於ける純潔を、眞剣な強い愛に落ちたロマंचチックな青年は、無感動になつた仲達と比較すると、はるかに重大と考へてゐる。

極く若い者が既に性交を経験してゐる事が多いのは、成熟期以前に淋病にかゝる者が非常に多いといふ事實によつて明らかである。この病氣は、商賣女ではなくとも、性的不品行に對して非常に無邪氣な少女達にも屢、見られる。多くの違つた仲間と自由に交際してゐる若者達の間には、花柳病に關しては同じ様な無智が存在してゐる。性に關する凡ゆる知識を注意して遠ざけられてゐる少女達は、その様な危険な病氣の存在をすら知らない。殊に田園に於ける多くの少女達は、この點に關して全然無智である。彼女らは屢、町から來た旅人達によつて傳染させられる。

スポーツや遊戯や友情や性質に合つた仕事等は、純潔を守る助けとなる。若い時代には或る種の仕事が性的慾望を起さしめる事は明らかである。坐業は、運動不足のため屢、慾望の原因となる。過度の勉強も同様である。或る醫者は、若い時の試験最中に、自分が始終興奮の状態にゐる事を發見して驚いたといつた。目前の試験に對する心配は、屢、不眠症を生み、熱病の様な緊張のために性的興奮を起さしめる事が多

い。身體の丈夫な熱情的な若者達の生活から、凡ゆる刺戟を追ひ出す事は困難である。スタンリー・ホールがいつてるやうに、それらの刺戟は豊富であり、陰險であり、我が生存競争のために強い力を必要とする時代に大きな防害となり易いものである。

戶外に於ける運動の不足は、過度の或は邪惡な性感情の原因となり易い。ヴェスキ―は、戶外運動の不足を、手淫の最も大きな原因の一つに數へてゐる。筋肉の運動は精力の最も大きな部分を消費するものであり、肉體の怠惰は我々を過度の性的本能に面接せしめるものである。古代の聖者は、純潔の神を狩獵の女神に型取つてゐる。戶外に於ける健康な遊戯は何よりも必要であり、生存競争に對する精力を喰ひつくす時間を出來得る限り短かくせねばならない。坐業生活及び都市生活の不健全な神經の過勞が、病的な性感情を強める事に疑ひはない。

四

非常に物解りのいゝ兩親達も、その惡い結果を知らないで今尙子供達に體刑を與へ

ることをやめない。肉體に加へられる苦痛は、文明國に於ける多くの性的邪慾者達が求めてゐる満足の一形式である。喜びを得たさに、自ら進んで肉體の苦痛を堪へることとは、マソヒズムといはれる性的邪慾の一つである。オーストリアの小説家であつたマソフは、この「喜びのための刑罰」に關する經驗を書いた。そして鞭罰はヨーロッパの大都市に於ける極めて一般的な刑罰である。ルソーも、その魅力を發見してから保母に鞭打たれることを自ら進んで求めたといつてゐる。マソヒズムの多くの例は、性心理の異常性に對する研究者達によつて報告されてゐる。

科學者や教育家達の多くの改革的な意見があるにもかゝらず、今尙家庭及び學校に於て若い者達に對する懲罰に鞭が用ひられてゐる。ヴェスキ―は「この殘酷な催淫的刑罰は過去の無智と暴力の遺跡である」といつてゐる。官能の強い少年達が背中或は臀部を鞭で打たれると、脊椎神經を刺戟し、性的慾望を起す原因となることに疑ひはない。鞭刑を見てゐるだけで、同じ結果になる人々もある。この問題に關する多くの科學的論議の中に、實際的な證據は十分に引用されてゐるし、あらゆる時代の殘虐

と懲罰の年代記にも實例は豊富に發見される。鞭で打たれる身體の部分には性器官と同じ神経系統が供給されてをり、そのために性衝動が生ずるのである。

鞭打に伴ふ自家遂情的な危険の他に、潜伏してゐたマソヒズムに對する偏向が姿を現はすといふ結果を生むことがある。この時、鞭打狂は確信的な情慾となる。

鞭打を與へる側に於ける結果も、優秀な心理分析學者達によつて研究されてゐる。鞭罰を行つてゐる教師達が病的な脅迫觀の犠牲となる事實は有名である。エリスは鞭打を與へる事を喜びとしてゐた或る校長が、生徒達と猥褻行爲をしてゐた事實を指摘してゐる。體刑を與へる多くの人々は、自分達のしてゐる事が子供達に對して、懲らしめになるのだと眞實に信じてゐるのであらう。が、多くの熱心な苦行派の人々が必要だと考へられてゐる苦痛を相手に與へる事に喜びを感じてゐるといふ事實は考へられてゐないのである。一般の兩親及び教師は、以上述べて來た危険については何も知らない。彼らは、若い者達に對する傳統的な、昔からの方法を信念をもつて用ひてゐるのである。

もし兩親達が子供達の性質やかくれた性癖を十分に觀察することを知つたら、鞭打に對して多くの子供達が異常と思はれる興味を示してゐる事を知るであらう。鞭に魅力を感じてゐる子供達は多い。私自身、子供の時分はさうだつたと告白した多くの男女に會つてゐる。子供達は屢、相互に鞭打をし合つて遊んでゐる事がある。五歳の時に、その父の男性の友人から戯談半分に鞭打たれた女性があつた。そしてその女性はその後、「常に鞭打たれる事を渴望するやうになつた」といふ例がある。時には、自分で自分の身體を鞭打つ場合もある。瑞西の或る醫者は、十二本の鞭で自分自身に恐しい鞭打を加へてゐた少女があつたといつてゐる。

我々は多くの科學的證明によつて、次の結論に達する。即ち全部とはいはなくとも多くの子供達に於ては、鞭打その他の體刑を與へる事は非常に危険なのである。鞭によつて生れながらの低脳兒の頭をよくさせたり、痴呆性の頭腦に通常の判斷力を目覺ましめたりする事が出來るといふのは甚だ疑はしい。鞭打その他の體刑は、スタンリイ・ホール教授の意見によれば、或る種の少年達に對しては矯正の効果が著しいとい

ふけれども、殆んど多くの場合却つて有害と考へられるのである。

五

昔は手淫から生ずる害を誇張しすぎる傾きがあつた。今日の科學的な意見は、この自家遂情の有害の程度に對しては多くの相違を示してゐる。或る優秀な醫學者達は、道徳的審美的な見地からはこの習慣を非難してゐるが、過度でない場合は神經に對して殆んど害を認め難いといつてゐる。が、他の側の醫師達は、神經衰弱症、不能症、正常な性交に對する嫌惡、局部の諸疾患等の原因をこの習慣の中に見出だしてゐる。或る人々は神經衰弱を過度の手淫の結果であるとし、他の人々に見られる頭の鈍さや生理的冷淡や極端な感情性等の原因を同じやうにその中に見出してゐる。過去の醫學者や倫理學者達が餘りに誇張して手淫の害を述べ立てたといふ事は、現代の多くの權威者達によつて明らかにされた。近年に於ては一般の神經學者や、開業醫達や、心理學者達によつて次の事が屢、くり返されてゐる。即ちたとへよき意志を持ったもの

であつても、餘りに誇張した、恐ろしい非科學的な忠告は、却つて手淫そのものが及ばすと同じ結果をもたらせるといふ事をである。

手淫から生ずる害は、主として道徳的及び感情的方面に於けるものである。よく注意して研究すると、手淫のために神經が興奮し、重荷を負はされる事は、青年達にとつては非常に有害な事が分る。たとへその習慣が成熟しない前の幼時に始まつたとしても、それは、神經系統に對する十分な刑罰であり得る。自家遂情の最も大きな危険は、普通の性交よりも過度になり易いといふ事である。機會は常に目前にあるのだし、過度になる事も非常に容易である。プロツヒは極端論者ではなかつたが、孤獨の中になされるこの罪惡は、子供の心理及び性格に大きな影響を及ぼす事を認めてゐる。その上彼は、ヒコボンデリヤや羞恥癖や根強い自家遂情をとげるために孤獨を偏愛する事——これらのことを、その影響として上げてゐる。他の權威者達は、色々な神經衰弱症や躁暴や極度の神經質等を、手淫の結果としてゐる。

手淫の習慣が根深いものとなると、結婚に對する嫌惡が表はれる。男性が「女嫌ひ」

女性が「男嫌ひ」になり易い。この習慣を有する者達は、屢、普通の愛情を経験し得ないやうに見える。その精力と神経とを濫費した者達は、自分達が生理的に結婚生活に耐へ得ないといふ觀念を得てしまふのである。

手淫は又、若い男性達を皮肉な、或は疲れた人間とし、女性達をして結婚の性的方面に對してわざとらしい羞恥をよそほはしめる。普通の性交に對する嫌惡が表はれる。兩性共に普通の満足を嫌ひ、次第に根深い性的邪慾を形作るのである。普通の表現や満足に對する心理的な躊躇もこの結果である。異常なものが好まれる。普通ならざる觀念が發達し、普通ならざる實行に導かれる。その邪慾的な傾向が、調和した結婚を得る機會を失はしめる。色々な幻想が奇妙な性的興奮を實際に經驗したがる。そして長い間その様な幻想を抱いてゐると、恐るべき異常な性格が形作られて來るのである。生殖器官に對する絶えざる刺戟の他に、教養ある男女間に於ても、色々な精神的及び道德的争闘が絶えない。屢、過度に耽り易い慾望の強い力と、倫理的或は宗教的見地との闘争は絶え難く苦しいものである。手淫の習慣に對する後悔は、人間の知つてゐ

る最も大きな精神的苦痛を背負はす事がある。時としては強い自己嫌惡或は厭世感が生じて來る。この習慣を止めようとする色々な試みがなされる。そして遂に克己し得ない結果は、恐ろしい後悔と絶望の感情をもたらす。そして常態的な性愛に對する反抗、及び自然の性的機構に對する反感は一般的な結果である。餘りに官能的な幻想をのみ抱いてゐる人々は、反つて誇張した純潔や精神愛に對する説教を他人に向つてなすものである。手淫の習慣を持つ人々のわざとらしい慎しみ深さは、社會の危険である場合が多い。何故ならその人々の性に關する考へは不均衡であり、偏見적であり邪惡であるから。

愛、優しさ、同情、理解——これらのものは惱める人々をその惡習から救ひ出す所の助けである。知識的なそして巧みな醫師達から、話を聞く事も又他の助けとなるだらう。凡ゆる脅迫的な文献は避けねばならぬ。時としては、人間の運命に於て性が演ずる役割りに就いてのわづかばかりの知識を得る事は、困難や誘惑の本體を説明し、統制の方法を教へてくれるだらう。最新の精神療法の一派である精神分析學は、性的邪

慾や異常に對する最もよき療法である。唯薬品を用ひたり、或は衛生學上の注意のみに頼つてゐては、効果は多くないであらう。治療は精神を通してなされねばならぬ。精神分析學の適當な人に、偽らない告白をなす事は、他の方法が利き目を表はさない場合に驚くべき結果を示し得るであらう。

六

少女達に於ける發情期は骨格、殊に骨盤、そして脊骨の下部に於ける變化によつて特徴づけられる。脂肪が増え、胸が發達する。子宮及び卵巢が大きくなり、生殖器の外部機構に色々な變化が表はれる。心理的な發達も同じ様に著しい。感情が起つて困惑させ、不安や移り氣や氣まぐれが表はれる。宗教が深い印象を與へる。藝術に對する、或は研究や慈善に對する熱情が急激に表はれる。

子供から生殖能力の時代に移りつゝある少女に對して、自然の新しい要求に添ふ注意が母親によつて與へられねばならぬ。「模擬妊娠」である所の月經に對しては、母親

によつて正しい豫備知識が與へられてゐなければならぬ。少女達が日々の危機の目的及びその自然さに對して無智である時、如何に多くの危険が心身の健康に對して存在してゐるかといふ事は、再び繰り返す必要もない。ヒステリーや、神經衰弱や性的嫌悪や卵巢及び子宮の疾病等を避けたいと思へば、少女は凡て隠す所なき生理學的な、及び衛生學的な注意を得てゐなければならぬ。そしてその注意は、愛や結婚や母性愛の倫理的、社會的方面に關する教へによつて補足されねばならない。

肉體の機能は、青春期に於ける正しき注意によつて間違ひなき方向に導き得るものである。屢、見受けられる月經時の異常や混沌は常に避け得るものである。月經時に於ける過勞は常に危険であり、そして月經時の異常はその週期と週期の間に於ける運動不足によつて生ずる事が多いのである。成熟した卵子の週期的な表はれに對して正しい知識を持つ事は、その機能を間違ひなく行はしめる事となる。この週期的な経過のうちには、何らの忌むべきものもないのである。それが持つ偉大な人種的意味が明らかになればならぬ。その機能には、自然の永遠の繁榮の象徴として、神聖な尊敬

が拂はれねばならぬ。

少女の性的感情が始めて鋭く起き上るのは、この週期的時期が多いのである。はつきりとした知識を授けられなかつた少女達は、この自然の試みに對して殆んど理解する所がない。我々は、卵巢のホルモンが血液に交り、それが頭腦及び心理に影響する事を知つてゐる。そしてこの週期的時期に於ける未だ経験なき感情は、無智な少女達を危険に落とし易いものである事を知らねばならぬ。

頭腦が性的な影響を受けるこの週期的時期に於ては、無智な犠牲者達は常に誘惑に打ち負かされる。その上自家遂情的な觀念が、屢、月經の時期に伴ふ事も明らかである。更にその上色々な過失や罪惡や惡行が心理的生理的訓練によつて正しい統禦が缺けてゐる場合に、少女達を訪れる。我々は、この週期的經過の中にある時は、少女達は屢、自分自身以外の者である事が多いといひ得るのである。月經は單に局部的な、そして生理的な現象のみではない。それは習慣と體質によつて多少の差はあるが、全有機體に影響するものである。

少女がこの循環的な、常態の缺乏期に關して豫備知識を與へられてゐたら、少くとも統制力を増さしめる用意をする事が出來よう。たとへこの時期に於けるいらいらした氣持、憂鬱、不満足等が全然なくなる事はないとしても、強い意志の力によつて部分的に抑へる事は可能であらう。少くとも少女が、月經時に於て面接せざるを得ない色々な困難に對して自意識を得る事は必要である。多くの醫師達が既に指摘してゐる通り、この週期的な現象は少女の生活に於て最も驚くべき變事であるのではなく、却つて意義ある、そして希望的な出來事なのである。

少女が不品行に陥る危険は、少年の場合よりも少い。不品行といふ言葉を不正な性交といふ意味に用ひればである。が、多くの經驗をもつた研究家の意見によると、自家遂情は少年達よりも少女達に於ける方が頻繁であるのだ。この原因については、多くの青年達は一時的な性交、賣淫によつて満足を得るといふ事實があげられてゐる。他の原因としては、女性の性的區域即ち催春的地帯が廣く、且散布的だといふことである。男性に於ける官能區域は局部的である事は前にも述べた。が、女性に於ては肉

體の各部分に官能の傳はる傾向がある。殊に皮膚、胸、尿道、その他生理學者によつて數へられてゐる催春的部分は廣い。實際的な例を集めて見ても、自家遂情的興奮の系統區域は男性より女性の方が廣いといふ事が分る。エリスは、發情期をすぎると手淫は更に男性よりも女性に於て普遍的になるといつてゐる。

多くの研究家達は、自家遂情に耽ることを目的とする催春的な空想が若い女性達に頻繁である事を證明してゐる。或る教授は、そのやうな空想は機械的な方法よりも有害であり、若い男性より女性に於ける方が一般的だといつてゐる。あらゆる文明國に於ける女性が自家遂情の満足を得るために凝らしたろく／＼な工夫は、性心理學に於ける顯著な現實である。手淫は單に文明國に於けるのみならず、或る未開人達も行つてゐる。手淫は殆んど宇宙的だとさへいへるのである。文明國に於ては、多くの附加的な刺戟や結婚の遅延や實例や暗示によつてますます増加し、擴大する傾向にある。

少年達に於けると同じやうに、多くの少女達によつてなされてゐる坐業生活も亦、自家遂情の原因である。又シハ或る女性に性的興奮をもたらすといふ事も實證され

てゐる。便秘も性的刺戟となる。贅澤な食事、怠惰な生活も同様である。暖かすぎる部屋、興味や娛樂の缺乏、遊惰、煽情的な物語等も頭の中に催春的な空想を起させる。仕事と遊戯の適當な變化、休息は、青春期の少女の健康のために最も必要である。

感傷に陥りすぎることも、少女達の教育に於て避けねばならぬ。一般的にいへば、少女達はきびしくし、少年達はやはらかくするやうにする事が効果的である。或る場合には、少女達にはあまりに「女らしさ」が發達しすぎてゐるし、少年達にもやさしさや憐れみが多すぎることがある。自家遂情に最も傾き易いのは、感傷的な、印象を受けることの強い性格である。我々は自家遂情は、野卑な又は官能的な者にのみ見られるものだと考へてはならない。藝術的な、詩的な、精神的な、洗練された性格に於て、それは却て特に多いのである。このやうな性格は、強い空想力や遺傳的な多情の傾向によつて、鈍い、空想力の弱い、冷血な性格よりも誘惑に乗り易く、又暗示にかかり易いのである。

自家遂情的な悪習に對する道德上の忠告は、人間性、殊に若き人間性に對する同情

ある理解を交へて、思慮深く與へられねばならぬ。若い時代の情熱の火の下をくぐつて来たことのある我々は、自分達が経験した危機を忘れてはならぬ。きびしい非難や脅かしや罰だけでは成功することは稀である。それらのものは、両親と子供の間怨恨を生せしめ、不信任の感情をもたらし、よき感情を滅ぼしてしまふものである。感情的に、心理に向つて訴へることは最も効果的である。肉體及び頭腦の力を保持するためのあらゆる手段が話されねばならぬ。そして若い者達は、若い時代に生活力を玩弄する事は結婚愛の喜びと平和とを傷つけるものである事を教へられねばならぬ。理想主義の精神が立派な實例によつて、よき生活のための眞面目な努力に對する賞讃によつて、寛大な、廣い心をもつた訓戒によつて、多くの若い男女達に吹きこまれねばならぬ。

二、學 校

一

學校生活時代に於て性の正しき指導を缺く事は、個人及び社會に對して非常に重大な結果をもたらすものである。少年及び少女は保護されてゐた家庭から、凡ゆる人間性と性質とからなる小さな社會を形づくるために送り出される。一年の中七八ヶ月は両親の監督から離れねばならない。若い生徒達は善と惡との間に放り出され、種々雑多の影響の下にさらされる。最も魅力的な仲間、屢、少年少女にとつて最もよき仲間ではあり得ない。上級生は色々の思想を植ゑつけ、少年少女の全生涯を色づける所の多くの實例を示す。

一般の小、中學校はそれぞれの校風や道德的雰圍氣が違つてゐる事に疑ひはない。或る學校は面白くない評判があり、他の學校は比較的惡影響から遠い。若し我々が進んで學校問題を論じ、或はその學校生活の思ひ出を話す事を好む友達に質問してみる

と、罪惡的な會話や悪習慣の記憶を持つてゐない者は極く僅かであり、大部分の者達は惡行の第一課を學校生活の中に學んだといふであらう。單に知識的方面からいへば非常に評判のいい學校に於てすらさうである。

或る少年達の學校に於て、性的邪惡や、或は異常な行爲がはびこつてゐるとした所で、その原因を遠くに求める事は要らないのである。學校生活は、主として春情期直前そしてその最中の時期である。それは性衝動が自意識になりつゝある時期である。この時期の生理的な色々な變化は、常に好奇心の源となる。そしてそれに伴ふ色々な影響が實際的な研究や實驗へと驅り立てるのである。多くの少年達が三ヶ月も夜晝となく一緒に群がつてゐると、性に關する會話が起つて來るのは自然である。しかもその不思議や空想が、合理的な満足を得ることは稀である。性は行儀の悪い戯談と考へられてゐる。性に對する態度はひどく淫蕩的か、或は輕薄か、或は無智か、或は野卑か、或は迷信的である。

多くの學校の中には性に關する廣い知識を持つてゐる事を裝ふ少年が、必ず一人か

二人ゐるのが常である。が、その知識は全體的でなく、又合理的でもない。それは羞恥と猥褻の複合物である。我々の多くの息子達が最も早い性教育を得るのは、その様な知識を源としてゐるのだ。生殖器官及び性の結合に對する下劣な言葉が用ひられ、美しくそして神聖なものと看做されねばならないものに對して、穢ららしい汚辱が投げられる。淫亂な少年によつて示される實例は、争つて野卑な物語りをし合はうとする慾望を刺戟し、そして徐々に寄宿舎全體或は學校全體が淫亂な雰圍氣となるのである。

今日の一般的な道德觀念は、たとへ多少の訂正を加へても、私の學校時代に流行してゐた色々な戯談や挿話や歌をこゝに書く事を許さない。私は、日々の社會に行はれてゐる多くの淫蕩な、或は非常に不愉快な戯談や物語りの作者を知らない。が、その様な戯談や物語りのためにひどく苦勞してゐる頭腦が何處かに存在してゐるのに違ひない。

愚かな、輕薄な會話を通して性の問題を知る事は、多くの少年達や、殊に少女達を

脅かす。性の問題に親しませる猥褻な暗示は好色の感情を教へ、實際に悪行を経験しようとする慾望を起させる。この、性に對する不尊敬の態度は習慣的となり、一生涯續くものである。性を穢らはしいものと考へてゐる男女達の殆んど凡ては、その心が幼時に於て穢され、傷つけられたものである。女性に對する尊敬の上に基礎をおいた眞實の愛の清らかな影響のみが、この幼時に於ける心の汚濁の結果を消滅させ得るであらう。或るオックスフォード大學の教授は、好色的な傾向はその半面に性愛に對するかくれた唯心的な考へを伴つてゐる事が多いと云つた事がある。或る人々にとつてはこの事は可能であらう。併し猥褻なる感情は高貴な性的理想主義及び凡ゆる正しきものに對する尊敬とは兩立し難いのが普通であるらしい。

性的な喜びにのみ心を集中させる事は、學校生活に於て孤獨の、そして相互の手淫に赴かせる。若い者達は、自然に内部から起る刺戟にさらされてゐる。凡ゆる刺戟は出來得る限り避けられねばならぬ。好色な考へにとらはれてゐる心は健全な状態にあるものではないが、更にそこにはその考へがますます激しくなり攻撃的になつて來る。

危険がある。若い時代には、性に關する考へが情熱を伴はず、肉慾的な要素を帯びない事が必要である。が、學校の環境は屢、少年達の高い感情を鈍らせ、性愛に對する知識的な態度を破壊し、後年實際的な満足を求め出す色々な傾向を生せしめるのである。

或る有名な中學に於て學んだ若い友人から、私が受け取つた悲しむべき私信の中に、そこにはびこつてゐる官能の凡ゆる型が描かれてゐた。そしてその手紙を書いた本人の現在の悪習と不幸とは凡てその影響に負つてゐると書いてあつた。

又或る手紙には次の如く書いてあつた。「私は決して誰にも知つてほしくない様な経験を、或る有名な中學校で得ました。私はその學校で、その後もまだ知らない様な暗黒的な虚偽と汚濁との雰圍氣の中へ、何も知らない少年としてはひつて行つたのです。」

エリスも次の様な手紙を發表してゐる。「寄宿舎は亂暴であり、野卑であります……私の寄宿舎に對する思ひ出の大部分は、理解する事も出來なかつた穢らはしい、不思

議な戯談であります。私が他の少年達と同じ様に本當に必要としてゐたものは、性の問題に對する適宜な僅かばかりの助けでありました。併しその様なものを得る事は全然不可能であり、皆は各自勝手に性に關する法則を知り當てねばならなかつたのです。それは長い、困難な、無駄な努力でありました。そして私は仲間の殆んど凡ての者が性の實際行爲に於て失敗したと信せざるを得ないのです。」

或る品行の悪い少年達は、若い仲間に向つて性に關する知識を尋ね、淫猥な考へを與へる事に邪惡な喜びを見出すものである。私の若い時代には、新入生達は「煙草を嗅いだか」と尋ねられる習慣だつた。それは、性の生理と生殖の神秘とを既に知つてゐるかといふ事の隠し言葉であつた。その新入生が知らないと答へると、直ちに野卑な戯談を交へた猥褻な教へを受けるのである。學校の生徒達の話題の或るものは穢らはしく、不潔なものが多い。それは肉體に對する不謹慎と自然力に對する間違つた態度を煽るものである。猥褻の氣持ちがしみ込んだ心には、既に何ものも神聖であり得ない。性に對するこの輕卒な考へは、合理的な教育といふ重大な仕事を複雑ならしめる。

我々は凡て以上の少年時代の影響を多少とも受けてゐるので、大人になつても羞恥や不快が臆病の氣持ちを取り去る事が中々困難なのである。我々は、性に關するあらゆる問題を動物的、或は不愉快だと公言してゐる。「教育ある」人々、又は教師達に出會ふ。が、スタンレイ・ホールも云ふ様に、性の問題は、若い者達を教へる人々にとつて最も美しき課題と考へられねばならぬ。少年達が猥褻な、野卑な考へにさらされてゐる時、教師の仕事は極端に困難となる。生物學を教へるに際しても、無智な少年をくすくす笑ひに導き、場外れの羞恥を起させる危険さに存在してゐる。苦い者に對する教育を熱心に研究してゐる或る醫師は、上級生に種族的器官を圖解し説明する時に、或る生徒達にひそかな喜びを與へる危険がないかと常に心配せざるを得ないと云つてゐる。

二

一つの學校の道德的標準は、その校長の性問題に對する態度によつて多く支配され

る。が、現在の教師達の多くは、性の問題を嫌ひ、抑壓してゐるといふ事は悲しむべき事實である。

古語や數學のみで本當な自由の教育がなし得ると考へてゐる教師は、人間性の最も強きものに觸れ得てゐないのである。學校は、肉體的、精神的、道德的發展の過程に於ける最も危機にある多くの若い者達に對して、大きな責任を持つてゐるのである。新しきそして神秘的な肉體及び精神の力が明日になつて來る危機に於て、そしてその力が強く自意識に浮んで來る危機に於て、凡ゆる若い者達は正しき道案内を要求してゐるのである。その道案内は、良心的な教師によつては決して等閑視され得ないものである。その義務を兩親達にのみまかせるのはいい事ではない。世の多くの兩親達は、この點に於ける義務を凡て怠つてゐる。教師達は既に若干の實行が見られる様に、性發達に於ける教育の仕事に於て兩親達と共力しなければならぬ。

性教育は學校生活に於ける道德的教育の基礎をなすものである。個人的、社會的、種族的幸福は、性道德と、性衛生とにかゝつてゐる。高尚な有機體及び人類の進化過

程に於て性の本能が持つ重大な力に對する理解なくしては、誰もよき市民、家庭の建設者、正しき兩親たり得ない。性生活を、他の生命力の活動より引き放す事は不可能である。愛は生活の起源であるのだ。

學科の中から發生學及び生殖を除かうとする科學の先生達は、教育を滅すものである。ハックスレーの生理學は、生殖機能に附屬する凡ゆる問題を除去してゐる。その爲にそれは、他の點に於ては非常に優れたものではあるが、今日では最も典型的な缺點を有するものといはざるを得ない。性生理學は一般的な生理學の一部門として教へる事が出来るのである。

毎年、教師、醫師に於ける科學的改革の意見を持つてゐる人々は、生命の保存の掟を若い者たちに教へる必要を、益、強く感じつゝある。我々の新しき性倫理學は、生理學、生物學をして心理學の上に基礎づけられねばならぬ。間違つた推量や、未開な精神から出た古代の迷信や、幻想的な古風の理論が用ひられてはならぬ。凡ゆる教育家達の義務は、最も根源的な生命力を尊敬する事を生徒達に教へる助けとなる所の、

凡ゆる有益な材料を蒐集する事である。

三

性科學に於て、若い者達を訓練する方法は如何なるものであらうか？ 家庭に於ける初歩的な第一歩的な教育の後、更に少年少女は學校に於て教育を続けらるべきであらうか？ この點に關しては、性教育の必要を認めてゐる教師達の間にも多くの意見の相異が見られるのである。學校に於ては、更に明白な科學的な教育が與へらるべきだといふ意見の人々も多い。その人々は、無理押しつけに外部から與へられる理窟一逼の教育法を意味してゐるのではない。我々は先づ生徒とよく話し合ひ、生徒の性向や考へてゐる事を理解する努力をせねばならないのだ。

これらの熱心な社會學者達によつて考へられた教育法は、先づ生徒達の興味を擴大化させる事である。遊戲や適當な冒險を獎勵し、スポーツその他によつて忍耐力を高めるやうに訓練する。このやうなきびしい教育法は、或る意味に於て發情期を記念す

るための未開人達のいろ／＼な祭禮が發達したものである。一人前の男性或は女性になるための準備は、ごく印象的になされ得るであらう。この、新しい活動がはじまると共に、倫理的及び思索的能力の發達、勇往、自制、兩性間の相互尊敬、健康に對する注意などが現はれねばならぬ。性は恥づべきものではなく、神聖なるものである故に、その不思議の底まで見極めねばならないのだといふ事が、教師達の間徹底しなければならぬ。

植物學を経て、教師は動物學に進まねばならぬ。衛生學及び倫理學は、校長と校醫の受持ちとさるべきであらう。あらゆる場合々々に應じて、教授法は注意深く變改されねばならぬ。性教育に對して生徒の兩親達の十分な賛意を得る事が必要である。少女達に對する教育に於ては、男性と女性の精神的感情的の相違が顧慮されねばならぬ。少女達の教育は、その兄弟達と比較して「やさしく」與へられねばならぬ。

或る教授は、十四歳から十六歳までの少女は既に自分自身の性機構の全般に通じてをらねばならないといつてゐる。純潔の重大性は、善と惡との對照によつて指摘され

ねばならぬ。性生理學及び衛生學の教科書は正しく、且無飾でなければならぬ。が、現在に於ては、少年少女達にとつて、適當な教科書は未だ存在してゐない事は本當である。

若い者達の性を正しく導くためには感情的な訴へが必要であり、そして教育者自身が十分に廣い知識をもつてゐる事が必要である。性教育の先驅者の一人であるマリアリユシネウスカヤは、八歳頃から植物の授精、魚及び鳥の生殖の話をはじめめる事をすすめてゐる。そしてその後は教材範圍を次第に廣め、初歩的な發生學及び生殖機能に及んでゆくのである。發情期となれば、性本能の發達に關する教へ、そして性衛生に關する細心の注意がはじめられるのである。

プロヒ教授は、十歳から生殖機構の自然史をはじめ、十四歳ですべての説明を終へる性教育のプランを發表してゐる。教授はいつてゐる。「主要な目的は生徒各自の性質を強くし、自己統制と克己力とを性の問題に關する深い、そして親しい理解によつて養ふことである」と。規律、仕事、訓戒、肉體的の衛生——これらのものは性格を養

ふ手段であり、性教育に於て最も主要な役割を演ずるものである。

エリスは、その年齢と性別に應じて、出來得る限り廣い性教育を實施する事を熱心に主張してゐる。エリスは母親が幼時に於ける最も自然な教師だと考へてゐる。母親は、率直と優しさを以て話し得なければならぬ。性生活の事實はお伽噺以上に不思議なものである。子供達に興味を起させる事は非常に容易である。常に與へられるものは幻想ではなく事實でなければならぬ。準備的な教育は専門的である必要はない。が、兩親と子供達との間に於て非常に親しく話し合はねばならぬ。種族的器官に對して尊敬的な態度が存在しなければならぬ。

エリスは學校に於て公然に性教育を實施する事は、まだ非常に困難だと明言してゐる。我々は、多くの場合性は汚らはしいものであるといふ罪惡的な傳統に出くはす。多くの兩親達は、自分の子供達に汚らはしい知識を與へられる事に反對する。一般的な場合に於ては、まだ教師の仕事は至極困難である。エリスは、性に關する生理學的教育は、極く控へ目なものであつても、現在のイギリスの一般の學校に於てはまだ公

然の實施を得る事は困難だといつてゐる。併し私自身、多くの教師達から聞いた話を綜合すると、徐々に學校に於ける性教育に對して進歩的な傾向が示されつゝ、ある事は事實である。歐洲大戦争は多くの社會改革を必要たらしめた。時としては非常に驚くべき性に關する諸問題は、殊に大戰後我々を訪れた。そして他の色々な重大な問題と共に、この問題に於ても我々は實際的行爲を研究し、組織化する事を強ひられつゝ、あるのである。多數の思慮ある男女達にとつてはすつと以前から明らかだつた事が、今や大多數の人々にその重大さを認められつゝ、ある事は事實である。

エリスは性教育の第一階段を、植物學においてゐる。植物の生殖を知る事によつて生徒達は生物學に赴き、そして人間の生理及び解剖學に及ぶのである。性に關する問題が除去されてゐる教科書は、もう使用さるべきではない。エリスによれば、若い者達の肉體に對する態度の如何が、性の訓練に於て特に重要である。エリスは、裸體の中に精神的價值のある事を信じてゐる。プロヒの言葉を藉りると、裸體に對する自然的概念がなければならぬ。

疑ひもなく肉體に對する不尊敬が罪惡の源である。肉體の組織及び機能の事實に對する健全な受容がなければならぬ。「着物を着た男性は着物を脱いだ肉體の中に官能的刺戟のみを見る」と云ふのは、既に墮落の印である。彫刻に對するわざとらしさは、我々が自然の單純さを拒絶しようとする實例である。エリスがいつた様に肉體の眞實の姿としたしむ事は、美の感じを養ひ、わざとらしい慎しみを消滅させ、精神の健康に役立つものである。文明國の男性が自分自身の肉體を恐怖し勝ちである事は、全的な性教育に反對する偏見の根源である。

その昔、聖バーナードがいつた様に、男性は臭き精虫、糞の袋、虫の食物に過ぎないと考へられてゐた時代に於ては、高貴な人間の肉體に對する價值評價は殆んど不可能であらう。今日に於てはかくの如き人間に對する概念は、若干の病的な異常な人々を除いては受け容れ得ないものと云ひ得る。が、多くの教養ある人々に於ても、はつきりとした形ではなくとも漠然と、以上の概念が存在してゐる事に出會ふ事があるのである。この點に現代に見られる肉體の器官に對する濫用、衛生の忘却、眞の美的

發達に對する無理解、そして不純な諸行爲の原因がある。肉體に對する有害な輕蔑を訂正する事が、兩親及び教師の一部の義務である。肉體を惡しきものと考へる人々は肉體を惡用し易い。肉體に對する輕蔑を消滅させるまでは、性生活に於ける純潔を望む可能性は少い。

宗教的教へは、性衝動を導くに際して必要とされる凡てをなし得るとは云へないのである。或る教授が云つた様に、性心理學の重要な要素は、倫理的負擔である。併し宗教の保護を求めつゝ、非科學的な貧弱な、知識をしか含んでゐない教育は、全然倫理的立場を忘れてゐる性科學と同じ様に危険であるのだ。その教授は先づ、かゝりつけの醫者から話しを聞く事をすゝめてゐる。そして兩親達の注告は、學識ある教師達の教へによつて後を續けられるのである。

四

學校に於ける性教育の正しき方法については注意深く考へられねばならぬ。アメリ

カ、カナダ、スカンヂナビア半島、瑞西、フランス等に於ても、それはまだ初步的な段階にあるにすぎない。講義はこの問題に對して十分訓練された教師達によつてなされ、内容に従つて少年と少女の席を分ける。生殖は植物及び動物の授精によつて説明される。或る教師達は、衛生學及び倫理學上の教へによつて生物學を補足する。

アメリカ及びカナダに於ては、學校に於ける性教育はよき効果をあげつゝあり、遠からない將來に於て全國的に普及されようとしてゐる。普通學校に於て兩性の密接な關係について、はつきりと話す事は教師達によつてまだ容易な仕事ではない。多くの教師達は、生徒達の前で必要な明白な話し方をする事を尻込みする。學校に於ける性教育はまだ明らかに困難である。が、何干とある男女の生徒達に一人々々個人的に十分な教へを與へる事は、到底不可能である。より健全な公平な態度が、羞恥的な拒否的な態度にとつて代り得るまでは、當分先づ、教室で少年少女達に生物學と發生學の一般的な知識を與へる事から出發すべきであらう。性生理と生殖との問題に對する本當に明白な理解が普遍化される事によつて、學校に於ける性教育に對する妨害物も消滅

し得るであらう。が、拒否的な、或は臆病な態度は非常に根深いものであり、我々は早急に絶滅せしめる事は不可能であらう。長い間の傳統的な恐怖を受け継いでゐる人、まだ原始的な考へを抱いてゐる人々に對しては、注意深く、徐々に進まざるを得ないであらう。

最初の、そして恐らく最も根元的な努力は、両親及び生徒達の心を、性に對する非合理的な、價値なき考へから解放する事である。一般の正しき精神と適當な態度の現れない中は、「秘密的な」もの、或は大多數によつて「非禮な」ものと考へられてゐる問題の内面を、急激に或は暴力的に開き見せようとするのは無鐵砲といふものであらう。學校に於ける性教育の第一段に於て、先づ精神的淨化——敵意、少くとも邪魔な偏見の完全な驅除がなされねばならない。性問題に對する正しい態度は、植物の受精及び動物の進化史上に於ける人間の性の發達を學びつゝある間に、次第に出來上つて來るであらう。主題が植物學の範圍に於ける間は安全だといひ得る。が、普通の家庭教育を受けて來た少年少女達に教室内で危険がやつて來るのは、我々が人間の生殖を説明し

ようと試みはじめた時である。若干の生徒達は、それを「非禮な」或は「汚がらしい」ものと考へる危険がある。

が、この危険は、教師が熱心であり、經驗を積んでゐる時には無力となる。その場合には、生徒がその問題を拒否し、或は躊躇する傾向に打ち勝つ事が出來るであらう。この危険に打ち勝つても、生徒達がまだ自然的な、全的な精神をもつて教へを受ける準備が十分になし得てゐない事を知る時、再び教師に失望が訪れよう。最初に教へるべき事は、性の知識は決して野卑な、禁制的な、反逆的なものではなく、清純な精神にとつては神聖で、美しく、靈感的なものだといふ事である。子供達は、淫猥は問題そのものの中にあるのではなく、問題に近づく態度の中にあるのだといふ事を教へらるべきである。態度の洗練と繊細とを養ふ事は、生命の自然機構に對する清純な見解を基礎としなければならぬ。我々は、種族の保存のために缺くべからざるものであるばかりではなく、高貴な生活、肉體の健康、精神の健全、活動、道徳の規準、宗教的精神の發達等の中に大きな役割を演ずる所の器官及び機能に對し猥褻を結びつけるそ

の事こそ猥褻なのだと教へねばならぬ。我々は、性は人間の全活動——大志と事業とに繋つてゐる事を教へねばならぬ。

學校に於ける性教育の困難は、子供達の多くが全然性について正しき教育なしに入學して來るといふ事である。我々は、無智な仲間や召使ひ達から吹きこまれた知識が正しい準備的知識になり得ると考へる事は出來ない。その反對にそのやうな知識は、極端に妨害的な、有毒なものである。もし一般の両親が學校に於ける性教育のために適當な準備教育をしておいてくれたら、教師達の仕事は非常に容易となるであらう。その時にこそ、子供達に對してはじめて合理的に性に關する教へをなし得る教師の仕事が容易となり得るのである。

五

女學校に於ける性教育は、少年達に對する初步的な教育の段階と類似してゐて、だらう。植物に於ける生殖機構の説明に、鳥及び魚の排卵の説明がつゞく。發情期の

少女達には、更に具體的な教へが必要である。月々の週期的現象は、正しい衛生上の注意を添へて説明されねばならない。

パールス・ヘドレイ博士その他の多くの婦人科の開業醫達と共に、人類の有能な母親達の大部分が性の健康に對する注意を怠つてゐる事實を認めつゝ、我々は世の女學校々長達に向つて、彼らの教育を任せられてゐる少女達の精神的幸福と同様に肉體的幸福に對する責任感を呼び起さねばならない。

氣むづかしいといふ事は女性に通有の傾向だと考へられてゐるが、少女達が自分の肉體に對して必要な注意と清潔とを忘れてゐるといふ事實からそのやうな氣持が生ずるのである。少女達は食事や消化に於て規律を忘れ勝ちだし、全身を屢、洗淨する事も怠り勝ちである。月經時に於て、屢、水に對する迷信的な恐怖をもつてゐたりする。

女性が「汚れがたもの」であるといふ禁慾主義的な、誹謗的な觀念が、尙多少の程度に於て多くの女性達の自分自身の肉體及び性機能に對する態度の中に存在してゐる事は悲しい。精神病學者であるボリス・シデイスは、性が、殊に女性が汚がれたもので

あるといふ考へを先天的にもつてゐた僧院育ちの少女の一例をあげてゐる。彼女は後年結婚期に近づくと、ますます女性に對する強い嫌惡の感情を示した。このやうな極端なものではなくとも、性に對する錯亂的な判断は一般の少女達の間にも屢々見られる。このやうな態度が、多くの結婚の中に悲劇の原因を作るのである。性恐怖症が昂じて來ると、結婚生活を通じて性交を嫌ひ通すやうな事にまでなる。この病的な嫌惡は、或る女性達による、人間性に對するきびしい、狹量な、無慈悲な考へに責任があるのだ。

教養ある女性達の間にも、生理學に對する知識を殆んどもたないで結婚生活に入る者が多い。或る者は全然もつてゐない。あらゆる年齢にわたつて、全然無智だつた女性の例は夥しい。この性に對する完全な準備の缺除は、「文明」のおどろくべき奇觀である。それは「本能が教へる所の」理論に對する完全な排除である。本能は、本能を失つた人間には何を教へる事も出来ない。自然の本能を抑壓してしまふ事が、現在の少女教育の主要な目的である。そして何らの知識も與へられず、無經驗の少女は最も殘

虐な、希望なき運命に落とされてしまふのである。

發情期の少女達に對する性教育は、母親の義務である。両親がこの義務に堪へる事が出来ないと思つたら、既婚の友人の同情ある、物解りのいゝ助力を求むべきである。結婚後の交はりについて詳しい教へを與へる事は、學校に於ては非常に困難である。たとへ教師が結婚期に近い少女に個人的に話さうと考へ、又話す事が出來ても、その教師が未婚である時は、未來の花嫁にはつきりとした確信を與へる事は出来ないものである。さういふ時には廣い人間的な同情と深い性生理學の知識とをもつた女醫が、よき話し手となり得るであらう。若い者達には、概して性の知識を比較的馴染みの薄い人から得たいと考へる傾向がある。母と娘との間には強い、抑制的な羞恥が存在してゐる事が屢々ある。

若い男性より若い女性の方に性に對する臆病と遠慮とが多く存在してゐる事は事實である以上、少女に對する性教育には殊に細かい注意が必要である。先づ準備として健全な自然な氣持を作つておき、それから性科學に達する事が必要である。第一歩と

して肉體に對する尊敬の感情を吹きこむ事が必要である。科學的であると同時に美的な詩的な、象徴的な訴へがなされねばならぬ。肉體の美、そしてそのメカニズムの靈妙は、十分に浪漫的な主題たり得るであらう。單なる解剖學的な事實をならべるだけでは不十分であり、又不愉快でもある。肉體と精神の不思議な相互關係、靈妙な代謝作用、胚種の永遠性などは、經驗ある教師によつては非常に面白い主題となり得るであらう。

性的衝動、宗教的或は道德的感情は共に發情期に生ずるものであり、しかも一度にその姿を現はし勝ちのものである。病的な宗教性は時々學校内の流行となるものであり、それは性衝動と信仰とが奇妙な混合をしてゐる性的過敏症に起因してゐる事が多い。物質的或は生理的現象に對するわざとらしい慎しみを伴つた過度の感傷癖も、この時期に成長する事が多い。若い者の心理に對して無智な教師達は、發情期の少女達の過度の感傷性を靜める代りに却つて増加せしめるものである。

女學校に於ける性教育及び衛生には、徐々に改良の傾向が見える。が、まだく教

育法及び教材に改良を加へる必要があるのである。本當の人間の教育に對して眞剣な意氣込をもつてゐる者にとつては、成熟しつゝある少女が試験をパスするために死んだ外國語を暗誦しながらいらくし、疲れきつてゐる所を見るのは憂鬱である。外國語などのために使はれてゐる時間は、近代生活の知識にとつて必要な、生きた事實を學ぶために、もつと有効に使用さるべきである。我々は、古典教育の不必要を論じようとは思はない。古語と親しむ事は廣い教養の一部となり得る事は、あらゆる進歩的な教育者達によつて認められてゐる事である。が、我々は、少女にとつて語學の時間と、生物學、生理學、心理學、社會學の時間とのどちらを多くする事がよき結果を示すかと云ふ事を決定すべきである。

女學校に於て科學が等閑規されるのは、一人前の女性を育てるために重大な缺陷となる。科學の知識は少女の心を實際生活に役立たせなくするといふ無反省な、間違つた意見が存在してゐる。或る化學者、動物學者、天文學者等がその研究に熱中するあまり、他の一切の事に振向く餘裕がなくなるといふ事は事實である。しかし一般の少年

少女が、生物學の基礎知識を得たがために日常生活の義務を怠るやうになる恐れは、全然存在しない。そしてたとへ僅かな科學的な知識でも、一般的な仕事をなす上に非常に役立つといふ事は本當である。觀察、思索、批評、集中——これらは人生の偉大な遊戯に、必ず大きな助力をなすであらう。あらゆる現代の文明國に於ける人間は、ますます科學的知識から光明を引き出す事が必要である。

三、社會の諸影響

一

子供及び少年少女は、一般の社會的交際を通して性に對する間違つた教へ、或は時としてひどい道德的腐敗の危険にさらされてゐる。いかに我々が一所懸命に少年少女を保護しても、そこには常に精神的道德的汚濁の危険が存在してゐるのである。街頭でふと耳にした偶然の會話が、好奇心の強い子供の心を刺戟する事は屢々あるであらうし、壁や電柱に書かれた猥褻な樂書が少年少女の心に強い影響を與へる事も多しであらう。

あらう。ジョイス氏は詳しく子供の心の發達を分析的に研究した結果、多くの俚所や待合室や公園のベンチや垣根を汚してゐる猥褻な言葉や繪の影響を重大視してゐる。

たとへ一人の青年が學校生活中に生ずる一切の危険を蒙る事がなかつたとした所で社會へ出て實務につき、あらゆる型の人間と交はる時には、決して安全たり得ないのである。ロンドン外國銀行の書記を暫くしてゐた或若い者が、中年の先輩に質問された。「君は淫賣を買つた事があるか？」と。「ありません」と答へた所、「まだ一人前ぢやないのか」とその先輩はいつたさうである。このやうな暗示はいづれの國へ行つても極めて一般的である。

故意に若い者達を惡習に染ましめようとするのは、多數の墮落した人々のみであらう。が、多くの會社や商店や役所には性に間違つた影響を與へる雰囲気があり、常に野卑な、淫猥な會話や戯談がはじまる傾向がある。少女達が働いてゐる工場や事務所や仕事場に於ても同様である。大きな事務所や仕事場であればある程、性愛に對する

野卑な考へや墮落的な會話は普遍的である。我々は、無智や悪い教育や有毒な環境のために身を誤る者達を強く責める事は出来ない。我々の中、これらの淫猥な空氣に全然染まらない者は極めて少数である。

我々の息子や娘達の交際仲間の選擇に對して、完全な取締りをなす事は不可能である。兩親が干渉すると、發情期に近い少年少女はそれを怨むものである。そしてその怨みは、若い者と年上の者との間にあるべき信頼を破壊し易い。もし我々が、我々に對する子供達の信頼と愛情とを保存するために注意深くなれば、子供達は滅多に自分達のかくれた友達のことを打明けるものでない事に氣づくであらう。見通しのいい、兩親達は子供自身がその影響が決定的なものだといふ事を知るまで、或る仲間との交際を無理に禁止する事はしないものである。が、最もよき友達は健全な心を持ち、自然な合理的な知識慾をもち、あらゆる遊戯と興味に對して識別をもつてゐる者でなければならぬといふ事を、常に親切に教へる事をしなければならぬ。

體力、忍耐心、勇氣、スポーツ精神などの理想的な状態を、少年達に鼓舞する事は常に効果的である。スポーツや運動は時として若い者の生活力を誇大化させすぎる事があるけれども、男らしいゲームは、その犯すべからざる規律や公平を尊ぶ精神をもつて正義、敵に對する寛大、名譽心等を養ふ事に疑ひはない。常に公平に行動するといふ理想は、肉體に對する誘惑の安全瓣となり得るものである。我々は、弱者に對する同情と集團生活に對する熱心を伴ふ所の勇氣、及び困難に堪へる觀念を吹きこまねばならぬ。

若い男は血氣にまかせて放蕩する位がいいのだと考へてゐる男女が、今尙存在してゐる。そして又、事實として有害無害の興奮や費消が無數に存在してゐる。が、我々が何をしようとも、若い者達は勝手な道を行き、遊び戯れ、罪業を喜ぶものだといふ事は眞實ではない。血氣にまかせるといふ事が、低い身分の少女達を誘惑し、若い時代に精神的な、向上的な愛の代りに官能のみの満足に耽る事を意味するならば、それは倫理的、社會的、衛生的立場からいつて全然非難さるべき事である。その反對に男女にかゝはらず元氣な若い者に、あまりにきびしい束縛を與へる事は却て失敗に終る

ものである。保護し、束縛する事が度を越えたと却て危険である。健康な少年少女を無理に抑へつける事は、その道徳性、肉體と精神の健全に、却て致命傷を與へる事が多い。元氣な生命力に充ちた若者達は、常に興奮、冒險、危険との出會、大きな力ある表現などを望んでゐるのだ。

少年達は、健康な生物學の發達線をはげしく駆け上らねばならないのだ。我々はあまりに早く文明化し、上品となり、馴致的となつたために、自分達の基礎的な、原始的な、古代からの憧憬の或る物に對して不適當なものとなつた傾向があるのだ。多くの若い者達が大人の間には交はると、十分な遊びの時間をもつことが出来なくなる結果は恐るべきものである。永遠の砥石である生命力を等閑視する事は、却て精神的萎縮肉體的衰微の重大な原因なのだ。生活のすべては勞働のためにあるのではない。スタンプ・ホールが正しくいつたやうに、現在の大多數の若い者達は十分な運動時間をもつてゐないのである。これは少女達に於て殊にさうである。女學校や専門學校に於て運動する少女達は、全體の一部分にすぎないではないか。多くの男女は生存をつ

けるために、過勞及び時間的にあまりに長すぎる仕事を必要とされてゐるのが現在の事實である。

自然の健全な、爽快な影響の中に於て元氣に運動する事を阻まれ、腐敗した都市の空氣の中にとちこめられてゐる何百萬の青年達は、飲酒や賭博や荒淫の他には、その溢れるやうな精力と情熱のはけ口を見出だす事が出来ないのである。この「血氣にはやる」現實は、金持ちに於ける如く怠惰の生活の結果ではないのである。それは貧しい物質的な報酬、不愉快な環境に於ける不斷の勤勞に對する反動であり、抗議であるのだ。都市の勤勞者達は、すべて僅かな時間でいゝから新鮮な空氣と日光の中に出たいといふ抑へ難い渴望をもつてゐる。複雑化するばかりの近代の工業化の中に、我々は性的異常と墮落との重要な原因を見出だす事が出来るのだ。

二

性に對する現在の社會の態度は、若い者達の道徳的、生理的、種族的發達にとつて

好ましいものとは考へられない。我々が大眾としての男女の心の中を探ぐる時、一定の倫理、すぐれた基準、立派な理想といふやうなものを見出だす事は出来ない。眞面目な少年少女にとつて、社會の性問題に對する見解や判断ほど困惑的なものはないのである。意見の争闘、行爲の矛盾は無限であり、混亂しきつてゐる。

性をだゞ満足とする「世間一般の」男達の考へがある。愛を向上的な、萬能的なものとする不思議な賞讃がある。そして又性を無價値な、動物的なもの、恥づべき情慾として抑へつけねばならないもの、男性の劣劣な本性の證據、エデンの園の墮落に對する罰、清い考へと行ひに對する不斷の危険とする意見がある。世間から自發的に孤立し、自己犠牲、一切の感情の放棄をなす事によつて潔純を守り、安全を求めよと男女を強制する禁慾主義的な教へがある。性愛に對する野卑な、冷酷な、全然好色一方の評価がある。たとへ無意識的にせよそれと結んで、人間に於ける最も強い本能、及び最もはげしい生命力の試みを非難し、抑へつけようとするわざとらしい慎しみがある。好色とわざとらしい慎しみは、共に正しき道徳、社會的幸福の敵である。たとへ双方が

その事實を認める事を拒否しようとも。

或る日、社會が若い男性に向つて純潔を守る事が幸福のために絶對的に必要だと教へたとする。が、明日になるとその若い男性は次の事を聞かされて困惑するであらう。

「この世に純潔な女性なんてあり得ない。淫賣はあらゆる文明國に必要なものだ。大部分の男性は旺に淫賣を支持してゐるのだ」と。そしてその若い男性は同じ瞬間に、我々は一夫一婦でなければならぬ、東洋の或る種族の公認的な多妻主義は忌むべきものであると聞かされるであらう。彼は又、愛は物質では求め得ないものであると教へられ、しかも同時に多くの美しき女性が傳統的によき結婚といふ事を、富裕な男性との結婚を意味してゐる事實を發見するであらう。

考へ深い若い男女達にとつて、日常の社會の性に對する態度はおどろくべき矛盾の集合體に見える。我々は子供達に、母性を尊敬すべき事を教へる。が、法律上の結婚をしてゐない母親は扉の外へ追ひ出し、その子供には重要な市民權を剝奪し、何の罪もない子孫に残酷な罰を與へる。我々は愛は物質で評價し得ないものだといひながら、

配偶者に裏切られた夫達は金銭でその「損害」を償はうとする。我々は兩性間の愛情は自然的なものであり、抑へ難きものであり、意志だけでは如何ともする事の出来ないものだと思へながら、合法的な契約なくして結婚し、その繋りを一層緊密にしようとする二人があると、宗教の名に於て純潔を説き、不自然な非合法的な結婚を戒める。我々は「墮落した女性」と社會的交際をする事を避けながら、よき衣服をつけ身分の高い者だと最も下劣な人間をも家庭的な團欒の中へ招待する。

一般の尊敬すべき、そしてあり来りたるの交際社會に足を踏み入れた若い男女達は、このやうな相違した意見を見せられて、性生活上の行爲に對する健全な、實際的な法則を學ぶ事がいかにして可能であらうか？

常識、教育、經驗が今日に於ては次第に多くの者達に、愛と結婚に對するてつとり早い評價を作らせつゝある。が、若い者は羅針盤もなく梶もなく、いかにして荒れ狂ふ大海をつたつて行けよう？ 自然の事實は、社會を形作つてゐる無智のおどろくべき暗闇のために多くの者の眼には見えない。科學的知識なくして何の保護であり、教

育であり、指導であらうか？

思想に影響を與へ、道德を腐敗せしめるものは書物ではなく、人生そのものであるといふ事がいはれて來た。疑ひもなく尊敬や賞讃が與へられてゐる人々の直接の言葉は、屢々、すぐれた聖賢達の印刷した仕事よりは重大な影響力をもち得る。多くの若い者達は、直接に交はつてゐる人々の直接の意見によつて性愛に對する考へを形作るものである。

幼時に於てその考へは先づ家庭に於て形作られ、やがて家庭生活の制禦がゆるんで來るに従つて訂正され、附加され、廢止され、改變される。社會が性格や精神の多くの型を示す。しかし教養ある階級をもふくめて多くの男女達が、性の發達、生理學、心理學、衛生學の問題に關しては今尙「盲目の手引きをする盲目」であるといつても誇張ではないであらう。大多數の者達が、今まで世界的に等閑視されて來たこの問題に對して十分な知識をもつてゐないのである。

この密林の中の十分に道を知らない者達の教へや注告に、妥當性があり得る筈はな

い。性の問題については、今日の社會の一般の男女達は人に教へるべき何らの考へも持つてゐないのである。彼らは「本能」にのみたよつてゐる。本能は、たとへば虎に於ては餌物をねらつたり性愛に狂つたりするために價值あるものである。が、それは人間が文明化し機械化するに従つて、周圍に規則正しいしつかりした柵圍をめぐらせ、失つてゆくものである。今尙男性を驅りたてるものが本能である事は明らかである。が、本能は、いかに行爲すべきかといふ事を、決して間違ひなく、そして不斷に教へるものではないのである。人間の母親は、子供をいかに育てるべきかといふ事を「教へられ」ねばならぬ。

結婚前の純潔といふ重大な問題に於ても、教養ある世界すら若い者達に對して明瞭な教へも、十分な助力ももつてはゐない。「清純は殊に女性に於て、高き價值あるもの」と教へられてゐる。が、その意味は、倫理學者によつて明らかに説明された事はないし、熱烈な強い性を惠まれた若い者達が、生活に於て「清純」を保つべき最上の方法も示された事はない。社會の一部では、性を制禦する事はいくら長い間でも心身に無害

だと説き、他の一部では、それは危険であり、不能や發狂の原因となり易いと主張してゐる。或る者達は禁慾は女性にとつては常に容易であるといひ、他の者は女性に於て週期的に起る性慾は男性と同じく實際的に好色的な傾向に陥らせ易いと説いてゐる。

自然の本能も公式的な教へも、實際の試みに會ふと何らの効果も示し得ない。そこで科學的な知識の助けが絶對的に必要となつて來るのである。そしてこれこそ、明らかに一般の男女達に缺けてゐるものである。現在の普通の社會と交はつて若い男女達が得るいろいろな影響は、すべてその正しさを疑はねばならない。最もよき場合に於ても、その注告及び指示は曖昧なものであり、最も悪しき場合に於ては、有毒であり毀損的である。若い者達に、あらゆる危険に對して警告する事が必要である。印象に對し感愛性の強い少女は、愛の感情や性の關係に對する無反省な一般の考へに感染させられ、精神的道德的幻像に悲しむべき歪形化を與へられて苦しむであらう。

性に關する知識は屢、全然準備のない心にはおどろくべき啓示として現はれ、その

時恐るべき衝撃或は激變が生ずるものである事が常に記憶されねばならない。衝撃が訪づれ、性の自然力の事實に對する目覺めが急激に生ずる時に、ヒステリー或は他の神經衰弱症の傾向が起る事があるのであらう。この危機については、最初の精神療法學の分析の中に豊富な證據が見出だせる。

三

演劇、バライテイ、映畫なども、若い者達の性に對する啓蒙の役を果す。舞臺は或る人々に強い官能的な刺戟を與へる。が、その事は決して演劇の教育的な、改革的な要素を無力にするものではない。我々は、或る者達が音楽によつて慾望を生せしめ、又その舞踊の中の女性の演技によつて性衝動に驅られるために、古典歌劇を催淫的だといふ事は出来ない。審美的なものの評價は性本能と繋がり、歌や繪や詩を原始的な憧憬の純化されたものと考へる事は出来る。が、その繋がりには普通の人の意識には上るものではない。

舞臺が愛の感情を野卑にし、性的理想主義を嘲弄する時、その影響は明らかに有毒である。かくして結婚に於ける不誠實に對する輕薄な態度、罪惡を戲談とする取扱ひ方等が、弱い、そして平均のとれてゐない心に大きな惡影響を及ぼす事もあり得るであらう。演劇に於ける「善」に對する影響力を、思慮ある人々は否定し得ない。同様に「惡」に對する影響力も否定し得ない。從來、たとへば花柳病の社會的影響を取扱つてゐるといふので道德的な演劇を禁じたり、純潔の理想が嘲笑され生活の清純が玩弄されてゐるといふので他愛なき笑劇を禁じた一般の檢閲の標準が、過去數年間に變つて來た事を述べておかう。大戰の現實が、平和時になつて多くの人生の生きた事實を一般に認可せしめたのだと思はれる。又現在では舞臺を説教壇にしようとする傾向も見える。

レビュー、パントマイム、見世物等に於ける女性の半裸體が見物に情慾を起さしめるといふ見解には基礎がある。が、多くの性心理學者達が同意してゐるやうに、一定の場合に何が催淫的な効果をあげ、何があげないかといふ事をきめるのは困難である

のだ。或る者は海を見て好色的な氣持を起し、他の者は靴の音を聞いて同様の結果になる。我々は舞臺に於ける女性の魅惑が何らの影響も與へないと斷言する事は出来ない。多くの文明國に於て、舞臺の上で野卑な服裝をする事は當局が禁じてゐる。が、そのやうな禁令は、一般の社會道德の改革には何らの効果も示し得ないのである。

以上の事實は、一般の娛樂物に對する取締りの實際的な道德的效果は、非常に困難な問題だといふ事を證明してゐる。あまり嚴格すぎる干渉は、却て秘密の場所に於ける、より以上の卑猥の原因となる。この反動は不可避的なものと考へられる。禁せられたものを餘計に見たがるのは、大部分の人間の通弊である。一般の娛樂物の改革は教育家の問題であり、議會とは殆んど直接の關係はないといつてもいい。兩親達が、性に對する考へを高める代りに低める見世物や話から子供達を守る必要に目覺める時、娛樂物の醜惡な、罪惡的なものに對して社會一般がとや角いふ必要は自然となくなるのである。愛と生命の神秘の神聖な本質を理解した人々は、「思はせぶり」なものに魅惑される事をやめるであらう。

我々は又、無意義な性的嫌惡を養ひ、反抗的な過度に導き、我々の自然の慾望を狂はせる「頑迷的な」態度も避けねばならぬ、寄席などで歌はれる歌は、子供達に聞かせるべきものではない。その中の多くのものは無害である事もあるが、他のものは野卑で、愚劣で、疑ひもなく有毒である。が、一般の娛樂物はもつとく、獎勵されねばならぬ。社會にはもつと多くの寄席や歌や笑ひがあつていゝ。

映畫も演劇と同様に、一般の教育及び娛樂として非常に有効となり得るであらう。映畫を見て、少年達が冒険や罪惡に對して興奮する場合のある事は事實である。が、我々は、屢、道德的影響をもたらす英雄主義の表象力の効果を忘れてはならぬ。アメリカに於ける教師達及び生徒達の間で行はれた調査によると、或る場合映畫が愛他主義、親切、同情、勇氣を養ふ事に疑ひはないのである。

四、書物

三〇二

印刷された言葉が若い者達の心に與へる影響は、殆んど無限である。多くの子供達は、兩性間の愛情についての印象を、先づお伽噺や傳説から得るのである。「アラビアンナイト」の中の性愛的な部分が、若い者達に有害な影響を與へる事は以前からいはれてゐる。同じ事實は、シエイクスピアの戯曲や「失樂園」等の多くの古典文學にもあてはまる。私は、「アラビアンナイト」の危険について若干の知識的な男女達に質問した事がある。が、その人々の意見では、議論の多い所は子供達に何らの印象も與へないらしく、子供達が頁をとばし、且僅かな注意をしか拂はない部分はいづれも戀愛の叙述であるといふ事であつた。

しかし聖書を通して、漠然とした啓蒙が與へられるといふ事は本當である。子供達が非常な好奇心をもつて舊約聖書の或る部分を讀み、教師や兩親にその意味について質問するといふ事實に對する證言は多い。或る高い教育を受けた女性がいつた。彼女がはじめて日曜學校へ行つた時に、エデンの園の話を開かされたのである。「アダムはイヴを知れり」云々といふ言葉が彼女を困惑させた。それは彼女と同様に古い言葉の形を知らない他の子供達をも困惑させた。教師は、彼女の質問に對して不器用に答へを與へる事を拒んだ。次の日曜日に、同じ質問が他の小さい生徒によつて提出され、答へは再び與へられなかつた。次の日曜日に、三度質問がくり返され、結果は同じだつた。「その後、私は先生を大變馬鹿な人と考へるやうになり、日曜學校へはもう行かないと決心しました」と、その女性は附け加へた。

割禮祭や去勢の話をする事も、屢、少年少女の好奇心を起さしめる。私自身の記憶によつても、聖書の時間に教師に「去勢」の意味を質問した同級生があつた。教師はその時、父親に聞けといつた。少年も少女も屢、聖書の中の、たとへばサムソンとデリラの話や、アムモンとタマルの話や、性衛生についてのモーゼの教へ等に興味を覺える。

使徒書の聖パウロの結婚の寓意は、子供達の好奇心を起さしめ、教師に質問させる事が多い。思慮深い子供達は「火刑にされるより結婚する方がいゝ」とか、「神は荒淫なる者、姦通する者を裁き給ふ」といふやうな言葉に質問を求める。大部分の両親達は、子供達の間でこのやうな知識慾の起る例を多く知つてゐよう。

聖書の中の以上のやうな部分を故意に探し求める習慣が、中學校や女學校に見られる。その物語は又他の少年少女達に話される。危険は、物語に對する興味が野卑となり、淫亂となる事の中にあるのだ。そしてこの危険を認める事が、やがて聖書は子供達のために修正されねばならぬといふ間違つた提議がなされる原因となるのだ。古典文學の不穩個所削除を夢中に主張してゐる人々は、常に修正したために却てより以上に強い好奇心を起し易いといふ事實を見逃してゐるのだ。削除された個所を讀みたいといふ慾望が起る。かくして、そのまゝにしておけば無害な書物が、却て有害なものとなつてしまふのである。

聖書の中に、幼兒達の心には神秘と見えてゐるもの、即ち姦通やその他の罪惡に對する譴責がある事は本當である。しかしそのために、聖書を子供達に對する禁斷の書だとするのは正當ではない。そこには疑ひもなく、異常な性的行爲や少なからざる邪慾が書かれてゐる。が、遅かれ早かれ、子供達はその一生の旅の中に於てこれらの異常行爲や邪慾の本當の場合に出會ふのである。正直な、倫理的關心を有する教師にとつては、それは却て子供達の質疑に對して巧妙な、同情的な注意を與へ得る機會となり得るだらう。古典やその他の聖賢の書も、両親及び教師の指導の下に讀まるべきである。文學の傑作に於ても、間違つた精神で讀まれる時は必ず性の問題に對して有毒な態度を形作る部分があるものだ。多くのものが、讀む者の性癖の如何にかゝはつてゐる。が、それ以上に多くのものが、指導者の見解及び感情の如何にかゝはつてゐるのである。

言語及び文章の表現形式は、時代と共に變化するものである事を子供達によく説明しなければならぬ。今日に於ては不劣な、挑發的な意味をもつてゐる言葉でも、昔に於ては普通の、寧ろ禮儀的な言葉であつた例は多い。古典文學の中、春情的なもの

考へられ、若い者達の好奇心を刺戟するものも若干はあるが、その大部分のものは、現代的には野卑な、挑發的な言葉を多少ふくんでゐても、深い道德的影響を與へるものが多いのである。

健全な精神をもつ教師なら、若干の特殊な、偶然的な部分のためにシエイクスピアを禁じアダムとイヴの婚姻を描いてあるといつて「失樂園」を禁ずる事はしないであらう。古典文學或は傳説に於ては、その一般的な調子、そしてその崇高な目的が若い者達に説明されねばならぬ。でなければ、或る場合には子供は、作者が低劣な目的をか持つてゐなかつたといふ考へを抱く事があるであらう。性に對してわざとらしい慎しみの態度を覺えた若い者達にあつては、殊にこの危険は避け難い。自然的な健全さをもち、細心にそして合理的に教育された少年少女達は、文學に於ける單に一部分的な官能的、卑猥的頁をのみ眷戀するといふやうな事は稀である。教師の主要な目的は健全な好奇心知識慾の、眞の精神を養ふ事である。

邪曲にするのは人生であり、書物ではないといはれてゐるが、それは一部の眞實にすぎない。感情的な、幻想的な、知識的な子供達は、屢、讀書によつて深い影響を受ける。下劣な、虚偽の物語が、多くの少年少女達に及ぼす影響には疑ふ所がない。荒海の物語は船員生活に對する憧憬を少年達に與へ、戦争の物語は光榮ある冒険に對する渴望をもたらし、山賊や海賊や馬賊の生活はその模倣を鼓吹する。印象に對する感受性の強い少女達は、戀愛物語によつて強く影響される。三文小説や赤本の中に書いてあるいろ／＼なモデルの眞似をしたいと、多くの者は考へる。書物は少年少女達に晝間の夢を抱かせる。殊に幻想力の強い者は、主人公に自分自身を擬し、時には悪漢氣取りにもなる。

或る書物が健全な性の發達に對して有害である事に疑ひはない。普通こつそりと人目をしのんで賣られてゐる春本などは勿論であるが、「安全な」或は「きれいな」ものとして廣く知られてゐる一般的な物語の中にも、その例を見る事が多い。挿繪入りの戀愛小説や、戀愛の生理的根據にも感情的要素にも無智である所の小説は、少女に全然間違つた教へを與へ、そのためにその少女は虚妄の幻想と誤解とをもつて結婚にのぞ

む例は非常に多い。少女小説にも、そのグロテスクな内容で眞の人生を歪曲化するものが多い。人間性を「精神化」しようとする傾向は、過度に過ぎて滑稽な結果になる事が屢々ある。さういふ傾向に於ける「男らしさ」は、屢々實際の意味の男らしさとは似てもつかぬものである。以上のやうな文學はいづれも、多くの少女達の性的發達を誤らせる。眞實の人生にとつて全然虚妄である物語が、若い者達の安全な讀み物とされてゐる實例は殆んど無限である。

挑發的な部分の多い戀愛小説を不斷に讀み耽ることは、心理的の性的發展の原因の一つである。偉大な情熱を藝術的に操る事は非常に感動的な仕事であり、最も偉大な藝術家も愛の壓倒的な力を常に示してゐる。一般の大衆に訴へる事を目的とし、知識的な、批評的な階級を目標としてゐない劣等な小説家達は、性的關係の官能的方面のみ誇大化する。圖書館や書店に於ける多くの調査が證明してゐるやうに、そのやうな極度に官能的な小説は主として若い女性によつて讀まれるのである。一週間に三四冊のこのやうな小説が、有閑的な多數の女性達によつて讀まれる。常に催情的な幻想

によつて擦ぐられる事は、好色的本能を代理によつて満足させる事であり、自家遂情行爲の一つだといはねばならぬ。

非常に刺戟的な物語を夢中になつて楽しむ事は、勿論心理的、肉體的影響を伴ふ。讀者は絶えず興奮状態にある。病的な場合に於ては、好色的な書物を讀む事が通常の性的鎮靜手段に代用される。このやうに不斷に幻想を過度に刺戟する事は、腦髓及び神経系統に重税を課せしめる事になる。これは最も大きな性的不衛生である。心が常に性衝動の上のみ向いてゐては、たまつたものでない。官能的な小説を放縱に讀む事は、知識的にも恐しい結果をもたらす。怠惰にそのやうな物語を亂讀する習慣は精神の集中を破壊し、眞面目な書物を強い注意と興味とをもつて讀む事を不可能にする。このやうな精神的逸情は、女性達の間非常に擴がつてゐる習慣である。

トオマス・ヘアデイ、アーノルド・ベネット、エッチ・ヂ・ウエルス、ガールズワージイ、ベレスフォード、キャナン、マッケンジイその他の思慮深い小説家達によつて發展させられた近代戀愛の題材は、性教育に對しても重大な奉仕をしてゐる。たとへ若

千の審美的缺陷をもつてゐる場合はあつても、これらの作家達は道德的要素である知識と眞面目さとをもつて書いてゐる。これらの作家達の作品の中には、官能のための官能は存在してゐない。そして又、性愛は官能と離れる事の出来ないといふ事實を虚偽的に避けてもゐない。

本箱を閉鎖してしまふといふやうな頑迷なやり方の代りに、讀書によつて若い者達に有益な導きを與へるべきである。子供及び少年少女は、興味を覺える書物についてすゝんで話し合ふべきである。或る種の書物を禁ずる事は、殊に幼児の場合に於て必要であらう。が、頑迷な禁止には大きな危険がある。健全な趣味を養はれた子供は、下劣な物語には惹かれないし、露骨な挿繪入りのものや非藝術的なものを喜びもしないものである。發情期の少年少女達の生活から、感情的そして性的刺戟をことごとく消滅せしめる事は不可能である。我々は、審美的感情に訴へる事によつて單に淫亂的なものゝ代りに美しき靈感を與へ、悪い刺戟をとり除く事が出来るのである。

性に對する尊敬的な態度は、あらゆる方法によつて養はねばならぬ。子供達は、

野卑なるもの、醜惡なるもの、瀆神的なるものに對する識別を與へられねばならぬ。最も美しき裸形も一片の衣裳をまとはせる事によつて下劣なものとなり、最も高雅な詩も一語を變へる事によつて醜惡なものとなり得るのである。が、我々は野卑を避けようとして、却てわざとらしい慎しみに落ちないやうに氣をつけねばならぬ。或る狂熱的な僧侶がドイツの博物館へ行き、ハンマアで裸體の彫刻の生殖器を叩きおとした話がある。これは不健全なわざとらしい慎しみによつて、逆に野卑な印象を與へる行為である。書物の或る頁を検閲する事も同じ結果をもたらせ易い。常に細心の注意を怠ると、禁止が反對の効果をもつ。覆面をさせられた事實は、危険の源泉となり易い。たとへそれが明らかにされると、よき道德力となり得るものであつてもである。

二

性教育に對する著作はごく最近のものが多いが、昔にも全然なかつたわけではない。性の衛生については、多くの聖賢達が説いてゐる。モーゼ、マホメット、ゾロアスタ

一、キリスト教の若干の神父達、ルーテル等は、その弟子達及び信徒達に對して道德的及び衛生的の掟を示してゐる。原始民族の發情期に關するいろ／＼の祭禮も自然の性教育である。梵語で書かれたもの、カトリック教の書物にも、性教育の意味をもつたものを見出だす。

昔の多くの社會改革者や道德家達の書いたもの、中にも、若い者達の性生活上の訓練を教へたものは多い。プロヒは、ルソー、サルズマン、バセドウ、ジャン・ポール等を昔の性教育學者として擧げてゐる。最近六十年間にヨーロッパ及びアメリカに於て、特に若い者達の教へのために書かれた書籍は夥しい。フランス、ドイツ、オーストリア、ロシア、スカンヂナビアの諸國に於ても、若い者達に性知識を與へる問題は社會學及び教育學の範圍にとり入れられて來た。

性的無智に對する十字軍に於て先頭をきつてゐるのはアメリカであり、この問題に關する最もよき貢獻及び最も健全な書物を生み出してゐるのもアメリカである。

性の諸問題及び性教育に對して、多くの無資格な又は不十分な著者達が書物を書いてゐる事實は否定し難い。出鱈目な性科學書や無責任な小説が有名な出版元から發行され、しかも堂々たる目次や絢爛たる装幀や挿繪をもつて飾られてゐる。或は又手淫や不品行のために「神經衰弱」となり、「男の價値」を失つた者達に藥品や機械的療法を廣告するのを目的として、多くの醫者達によつていかゞはしい書物が出されてゐる。

自分自身及び若い者達を啓蒙する方法を眞劍に求めてゐる両親、及び教師達すらも屢々、最もよく廣告され、行きわたつてゐるといふだけで書物を買ふ事がある。我々は先づ教へる者を教へねばならぬ。堂々たる装幀や署名が、直ちに信用すべき證據とはならない。熱心に性の問題を論じてゐる大臣や教育家も、全然生理學及び心理學に於て無智である場合が多い。あらゆる教へは、生物學的教へと人間性に對するよき理解とをもつて助けられねばならぬ。書物の中の一頁の誤りが、讀む者の道德性を全然破壊してしまふ場合は多い。無智は恐るべき罪業と同じやうに有害である。以上の原因はすべて又道德的眞實に反抗するものである。

過去の著名な醫學者の書いた書物も、現在の科學批評、多くの知識と經驗の集積に

よつて實際的には無價値とされたものは多い。たとへば「賣淫」「生殖器」その他の書物を書いたアクトン博士の書物は、今日では既に博士の強い想像と個人的偏見の證明であるにすぎない。六十年前の學者であつた博士は、女性に於ける性の刺戟に對する生理的反應の一切を否定した。そして女性の性慾を認める事を「罪業的な誹謗」であるとされた。日常生活の事實に對して盲目である醫學者は、教師達の教師として認める事は出来ない。このやうな著作が無智なそして無批評的な若い女性達によつて讀まれたら後年恐るべき感情と神経の錯亂の原因となるであらう。

性問題に對するよき貢献をなす書物の多くは醫學者によつて書かれてゐるが、同時に心理的洞察を缺き、傳統的な考へから脱しきれない著作も醫學者の手になつたものが多い。たとへばコッソ博士の「新しき生命の科學」は廣く讀まれ、今日もいろ／＼な人によつて引用されてゐるが、若干の假説を眞實として取扱ひ、現代の科學が完全に訂正した所の不思議な衛生學上の誤謬を犯してゐる。ストール博士の「少年は何をなすべきか」及び「一般人」の著作は、その道徳的熱情によつて有名であるが、治療せんと

した悪業をあまりに誇張してゐる缺陷をもつてゐる。

「正しき書物」の選擇は困難な問題である。エッチ・ヂ・ウエルスはいつた。「印刷された言葉は沈黙の教師である」と。これは全然眞實だ。困難は、眞に健全な、有益な教師を見出だす事にあるのだ。我々は、一般の大衆はすべての問題に對して全然無智であり、たゞ最も粗末な知識をもつてゐるばかりだといふ事實を常に記憶してゐなければならぬ。あらゆる偏見は去らねばならぬ。偏見のために自らを教育し、若き者達を教育する機會を逸する事は多い。

第四章 結論

一、無智の危険

以上、私は自然力及び幼児及び少年少女の性衝動の發達に對する知識の缺乏がいかに危険であるかといふ事を、そして最善の教育方法を案出する必要を説いて來た。が、讀者の中には、まだ無智の危険の程度が十分に理解し得ず、實際的な科學的知識の缺乏から生じた心理的生理的の災害の例を、もつと具體的にあげてほしいと望まれる方があるであらう。性の問題を暗闇のまゝにしておく傳統的な虚偽と誤解とは、性教育の熱心な主張者達が無智の害を誇大視し勝ちだと想像する。「自然の本能」のまゝに導かれてゐる一般の大衆は、決して性の諸問題と向ひ合ふ事をしないといはれてゐる。

この問題を注意深く検討する時、我々は、最も深い感情から生ずる精神的、道德的争闘は屢々、象徴的な或は代償的な形をとるものだといふ事を發見するであらう。人は神經衰弱や憂鬱症や不眠症や心配や肉體の諸機能の變調を、過勞や不適當な環境や金錢上の不安などに原因とし易い。が、それらのものは單に補助的な原因にすぎないのである。煩悶や苦惱の眞の原因が、當人の意識してゐるものとは非常に違つてゐる場合が多い。疑ひもなく、自意識の受ける試みや悩みが神經を疲らせ、憂鬱を増させる事はある。が、それは屢々、その根元的な原因と較べると、副次的なものである。現代の文明生活に於ては、性的な心理争闘から完全に解放され得てゐる者は極めて少數であるといふが事實である。

ヒステリーの最初の原因は、生理的衝撃又は精神的打撃から生ずる傷害である。その傷害の直後にヒステリーの症狀が現はれるのではないが、その後になつて「遊離的な刺戟」を機縁として現はれる。たとへば或るリュウマチスの患者は、濡れた草の上に寝たのが原因だと信じてゐる。しかし多くの人々は、濡れた土地の上に寝てもリュウマチスにかゝらないのである。濕氣にふれる事は肉體の微細胞に對する遊離的刺戟

とはなるが、病氣の「原因」ではないのである。

戦争で受けた衝撃は、神経系統の傷害に對する遊離的刺戟となる事に疑ひはないであらう。塹壕にゐる兵卒は、他の人なら神経を攪亂してしまふやうな爆發にも殆んど驚かない。或る女性に對しては、子供を失ふ事は太陽の没する事であり、最も深い悲しみをもたらすが、それ程感情的でない女性にとつては一時的の悲しみにすぎないし、或る特別の女性にとつては殆んど悲しみの原因にさへならないのである。

ずつと昔の子供の時に受けた衝撃の反響として奇妙な、理解し得ない強迫觀念が、十分に強い別な刺戟の下に起る。子供の時に經驗した心理的衝撃が、さういふ傾向のある個人には常態的なものではなくとも、病的とはいへない著しい混亂を生せしめる場合がある事に疑ひはない。

文明國に於ける近代生活の複雑さと緊張とは、神経や心理の混亂や發狂の原因となる多くのものをもつてゐる。戀愛の悩みが腦髓の混亂の最も普通の原因だとはいへないが、現代に於ける性の問題が殊に女性に於て、神経或は心理の錯亂を惹き起す事に

疑ひはない。

昔に行はれてゐたヒステリーと子宮との關係は、現在考へられてゐるやうな虚妄のものではないのである。生殖力と精神力との間に密接な關係のある事は事實である。ヒステリーに於て、心理的な性の影響が顯著である事は多くの研究者によつて認められてゐる。私は女性のヒステリー症が、強制的な獨身生活や生理的慾望の不満足の結果である事を、無理に理論づけようとするものではない。が、我々は、性の心理的傷害が男女に於ける共通したヒステリーの原因である事を、正確に證言し得るのである。病人自身がその傷害を自覺してゐないといつても、明らかな原因として傷害の事實を弱める事にはならないのである。

十七歳の少女のヒステリーの例がある。その最初の徴候は、階段を降りて行つた時に猫が肩の上へとびついた時から起つた。これは明白に最初に受けた衝撃であつた。が、この事件は、それだけでは十分な原因ではない。調べて見ると、その以前に或る青年が階段の所で彼女にいひ寄つた事がある。そしてその時、彼女の感情が目覺めた

のである。

神経の諸疾患がこのやうな原因から生ずる事を、我々は幾度となく發見する。幼時に友達から性に關するおどろくべき話を聞かされたといふだけの事實が、最初の傷害を引き起す事がある。或は突然の暴力的な性の申込みをされた経験、若い女性が自分が友達の夫を戀してゐる事を發見した時の心の争闘、尊敬してゐた近親の者の中に性的異常性を見出した時の驚き——これらの経験は秘密にされ、誰も彼も忘れようとする努力するものである。が、それは深く意識下に潜在し、破壊される事なく沈んでゐるものである。恐れや恥や遠慮や慎しみのため、それらの経験が口に出されてはいはないといふ事實が、その印象を一層執拗にするのである。つまり我々の中に他人が存在してゐるのであり、それが遅かれ早かれ苦しみの原因となり易いのである。

二

十分な教へを受けてゐない者ほど、性の衝撃にさらされ易く、そして極度の惱みを

起し易い。「自然のまゝに任せておけ」といふのは、無智を推薦する事である。家庭に於て一切の不純な影響から注意深く保護され、しかし必要な知識を與へられない少年少女も、悪友又は墮落した年長者の話或は實例によつて半時間の中に一切の腐敗を覺えてしまふものである。そしてこれは、毎日生じつゝある事實である。

三

次に擧げる無智のために生じた不幸の實例は、私自身が見聞したものの、或は友人によつて話されたものである。

例一

ある醫者の友人が話した事だが、彼はその勉學時代、Xといふ友達と同じ部屋を借りてゐた。或る夜かへつて來ると、その友達が安樂椅子に腰をかけ、半分眠つてゐるやうに見えた。聲をかけても返事がないので近寄つて見ると、咽喉に傷のついてゐるのが見えた。傷は深かつたが、急所を外れてゐたので、Xは自殺し得なかつたのであ

る。友達はいろ／＼な醫療の手當をし、出血をとめ、傷に布片をまいてやつた。Xが自殺を試みた原因は、手淫の恐るべき、不可避的な結果について記述した脅迫的なパンフレットを読んだからである。Xは決して自分の恐怖や苦惱を口にした事はなかつた。そしてたゞ絶望に落ちてしまつたのだつた。やがて彼は、友人の健全な衛生學上の注意を受け、強迫觀念に打ち克ち、心身の創痕を恢復した。

例二

性の正しい關係について全然無智のまゝ育つて來た中年の女性の話である。彼女は二十四歳の時に結婚した。彼女は生殖の經過について説明したパンフレットを読み、戦慄した。その後、彼女は小説によつて女性も性衝動を有する事を知り、彼女の性がそのやうに「淫蕩」である事に驚愕した。彼女は二つか三つ年上の男性と結婚したが、結婚は非常に不幸であり、夫は飲酒に耽るやうになつた。

例三

二十一歳の時に結婚した或る男性は、彼の生殖機能が非常に弱つてゐるといはれた。

彼は數ヶ月の間、きびしい禁慾を守つた。そしてその間結婚生活は全然常態ではなかつた。普通の體格を供へてゐた妻は、夫の冷淡に、「精神的そして生理的に惱んだ。彼女は神経衰弱となり、悪性の貧血症となり、やがて心臓を傷め、遂に三十四で死んだ。彼女は自分の不健康の原因を、結婚生活に對する不満に歸せしめてゐた。

例四

愛と結婚とに對して高い理想をもち、深い宗教的氣質をもつた女性が、四人の子持ちのやもめの男性と三十歳頃に結婚した。夫は非常に信仰深く、清教徒的だつた。不調和は、夫の結婚生活の義務に對する拙劣さのために、蜜月時代から生じた。花嫁は夫婦間の關係に對して強い嫌惡を抱きはじめ、それは又大きな悲しみとなつた。彼女は屢々、聖ポーロに從はない事、及び夫に不従順である事を夫から非難された。彼女の生活は非常に不幸であつた。二人は始終喧嘩をし、妻は夫に何の愛着も感じなかつた。彼女は離婚をしたいと思つたが、嚴格なキリスト教の掟がそれを許さなかつた。夫婦は共に性の問題に對して非常にわざとらしい態度を取る様になつた。そして妻は

その娘達に對して、結婚の生理的側面は恐ろしいものであると教へた。

例五

T夫人はやはり傳統的な無智の中に三十歳で結婚した。結婚の當夜に、彼女は夫に向つて決して性交をしないと語つた。いくらいつてもきかないので、T氏は無理に犯す事を止めた。結婚は決して完全なものとなり得なかつた。夫はその妻の親友と不純な交はりをする様になつた。

例六

或る若い男性が、性的に冷淡な女性と結婚した。妻は屢、夫の情熱を拒絶した。そしてそのために夫は非常に悩み遂に性的な不能症に落ちた。多くの不幸を経験した後二人は別れた。夫は再び結婚し、やがて普通の状態になり、不能症でなくなつた。

例七

或る少女が非常に熱心な申込者と結婚した。やがて間もなく彼女は生理的な交はりが不愉快であるといひだした。そしてこの様な仕掛けを發明した自然を呪つた。失望し

た夫は、慰安をアルコールに求めた。數年の後、夫はすつかり放蕩者となり、妻は離婚した。夫は再び結婚し、幸福となつた。

以上は、無智の結果を表はすものとして極く普通の例である。それらは又不幸にも非常に典型的である。多くの人生經驗を得れば得る程、結婚の幸福の基礎である所の性の技巧の缺乏が、人間の最も深刻な不幸の原因であるといふ信念は深まるばかりである。多くの結婚に於て、單に初步的な科學的知識を得ようとする試みさへない場合が多い。或は又、精神的幸福は、性愛に對する正しい態度を得る努力である事を相互に認め合ふといふ事に關はつてあるといふ事實に對して、明白な理解がない場合が多い。愛はやさしい、高價な、我々の想像を越えた美しい花である。併し多くの脆い花と同じ様に、風に弱く、霜に傷つけられやすく、絶えず注意して手當てをしないと、消え散り易いものである。

結婚の性行爲に對する多くの人、殊に深窓の處女の先入主は、無智と空想の傳統、そ

して單なる推量から出来上つてゐる。それらはたとへ悲劇的な結果をもたらさなくとも、常に滑稽である。人生に於ける最も重要な事件であるべきものに對して、我々が十分な知識を得ようとしなのが普通であるといふ事實は、驚くべき不思議である。浪漫的な、情熱的な愛と、その感情を確實にし、保存する爲に助けとなる「事實」に對する知識との間には、密接なつながりが存在してゐる。が、この事は或る人々にとつては全然不可能の事であるらしい。けれども強い愛の感情を實際的に作用せしめる場合には、空想の代りに知識が得られなければならぬといふ事は、問題にするに足らぬほど明らかな事である。性愛に於けるほど、無智が危険である事は、人生の他の分野では見當らぬ。

生殖に於ける調和的な兩性の共同作用の大きな力を知れば知るほど、そして幸福な結婚のもたらす道徳的影響を知れば知るほど、この力をその凡ゆる可能性、姿、屬性の一切に於て知らうとする慾望は益々強くなるばかりである。それ故に我々は完全な倫理的基礎、實際的な社會學、種族的繁榮の新しき理想に對する研究の第一段に、性

愛の心理學をおく事を主張するのである。眞に我々にとつて必要なものは、性の科學である。

たとへ人間の知識に對する能力が微少なものであつても、科學の適切な問題は常に存在するのである。知識の實際的な分野の外には、不正確な意見や空想の領域が存在してゐるばかりである。そして不幸にも人間達は餘りに屢々、知識に對するよりもその領域に對して、より以上の尊敬をはらふのである。が、この傾向は次第に少くなりつゝある。

既に述べた様に、殊に女性の間には無智の例は多い。結婚生活に於ける最も大きな悩みは、兩性の全然新しい相互關係に對する精神的無準備である。女性の間には、心理的汚辱は非常に普遍的な現象である。それは、屢々、結婚に於ける冷淡の原因となり、多くの夫達にとつて惱ましい問題を形作る性的不感症の原因となる。それは又多くの女性にとつても、結婚の喜びを消滅せしめるものである。ストープス博士は、世の妻の八十パーセントが、性的行爲に附屬するものとして自然から恵まれた幸福を

経験しないといつてゐる。或る時、私が、友人の既婚の男性で、一家の父である者にこの統計を話した所、彼はそれはまだ少く過ぎるといつた。彼によれば完全な性的幸福を知つてゐる妻は、二十パーセント以下である。

エリスは性的機構に對する無智から來る精神的苦惱及び生理的障害の多くの例を蒐集してゐる。非常に有能な、高い教養を持つた人々が、實際的にも性に關して如何に無智であるかといふ事は、まことに驚くべきものがある。

放蕩者は、女性及び愛に就いてよく理解してゐると考へてゐるが、多くの場合それは自己欺瞞である。屢、彼は處女の氣持については最少の理解さへ有してゐない。彼の有する職業的賣娼婦との経験は、女性に就いて間違つた考へを抱かしてゐる。或る醫學者は、夫によつて妻に加へられた傷害の例を、百五十以上も擧げてゐる。心理的傷害は、殊に後年に於て一層重大となる。感情が受ける傷害は深く、屢、それは一生の間續く。妻によつて自然の性交に對して示される嫌惡の感情は非常に多く、その主なる原因は兩性の性的無智の中にある。

我々凡ての者は、幼時から老年に至る迄我々自身を傷つけ、そして我々が最も愛してゐる女性をさへ傷つける危険に面接してゐるところの、間違つた教育の犠牲になつてゐるといひ得るであらう。

四

結婚生活に於て過失を犯す凡ゆる機會は、凡ての男性及び女性が、生理的、倫理的、心理的の凡ゆる見地から性行爲に就いて十分に教育される迄は、益、増加するばかりである。我々がこの事實を理解しない限り、何故結婚の失敗がかくも多いかといふ謎を解く事は出来ないのである。愛を説き、忍耐、同情、統御、慎しみを説く事は結構である。併し結婚愛の重要な要素である之等のものも、無智の爲に不幸な心理的傷害が夫婦のどちらかに加へられる時は、全然役に立たないのである。感情の緊張した一時間に受けた精神的衝撃は、結婚生活の幸福に對する希望をすつかり消滅せしめるであらう。精神の肉體に與へる影響は非常に大きなものであり、感受性の強い精神に受

けた衝撃は、全生涯の結婚愛に對する一般的な表現をなくしてしまふ。けれども深く傷つけられた人間が、如何にその禁せられた感情を消滅せしめようと試みても、感情は存在し、放逐を肯んじないのである。邪魔な臆病や嫌悪が現はれ、それらは明らかに非合理的なもの、異常なもので見られる。しかも、惱む者の意志はますます痲痺する。繊細な心理的メカニズムは、既に修正し得られないまでに傷んでしまふのである。

我々は、性愛に對する見積りに於て肉體と精神とを分離せしめる事により、不可能を可能としようと試みるのである。結婚に於ける最も靈妙な、最も美しい精神愛は、兩性の心理的そして肉體的要素が幸福な交じはりをする事によつてのみ生ずるのである。このやうな幸福な結合に於ては、兩性の生命力の調和的な親和と混合とが必ず發見し得る。我々は屢々、このやうな幸福な結婚を偶然の結果に歸せしめようとする。いかに知識と慎重とをもつてゐても、男性或は女性が感情の強い波に乗せられて、不幸な結合へ追ひやられる事があるといふ事實に疑ひはない。が、我々は結婚に於ける偶然性の影響を過重し勝ちであり、偉大な幸福の可能性に對して宿命論的になり勝ちである。

る。もし我々がこれはすべて偶然の結果にすぎないと考へたら、一切の危険に對して準備をする事はやめるであらう。勿論、事業の成功は多く偶然の結果を伴うてゐるといふ事は幾分正しいであらう。我々は金儲けの争闘に於て、知識がすべてを支配するといふ事を信ずるには聰明でありすぎる。が、愛の實現と結婚の和合に對して、果して知識は何の助けにもならないであらうか？

結婚愛の眞實の成就是、絶えず繰り返される普遍的な過失によつて脅かされ、妨げられてゐる。男女は共に相手を非難しつゞけ、後天的な性の特徴に對する知識を等閑視する事によつて相互に敵對し合つてゐる。女性達は無理強ひに男性達を自己否定に陥らしめ、或は生れ附男性的であるより以上に女性的である行爲に惹きつけ得ると考へ、男性達は屢々、女性達を知識的にも感情的にも男性を規準として作り直し得ると空想する。愛に於ける女性の受動性は、或る男性にとつては腹立たしいものだし、他の男性にとつては高貴な徳性である。男女共に性の問題に對して、心理的理解を缺いたまゝの考へをもつてゐる。女性は女神みこのやうな無智みこでなければならぬといふ男性の

傳統的な考へを知つた感受力の強い女性にとつては、「受動性」は厭はしいものとなる。家長制度の長い期間が女性に課せしめたろくな性質を、或る男性達は不當にも非難する。

同じやうな不當さをもつて、或る女性達は、男性達が性衝動の満足に大きな價値を與へる事を戒める。女性達はそれが機能的に男性の特徴である事を忘れ、人間進化の線に沿つて自分達自身が配偶者に最も強き生命力に富んだ者を選ぶ事により、男性的なものを強めて來た事實を見落す。男性達は種々な罪業や剝奪によつて女性達の自然的な性的抵抗を強め、女性達も亦多くの誘惑や無理に過度の慎しみや遠慮を養ふ事によつて、男性達の好色を強めて來た。長い間の徐々たる進化の中に生じて來た状態や、未開的な經驗や、心理的理解の缺除をお互に咎め合ふ代りに、男女共にお互の機能に於ける基本的な性的區別を學び、傾向、感情、知能、慾望、意志等に於ける相違を知る事によつて、相互の關係を整理するやう努むべきであらう。

再び無智の危險に關する問題に立戻ると、これだけでも一冊の書物が必要だといはざるを得ない。そこには子孫の高い倫理性と生理的幸福と、繁榮とを目指しつゝある優生學的理想がある。そして科學的知識が蔑視されてゐるあらゆる場所に擴がつてゐる劣生學的實踐がある。

優生學の問題は既に廣い分野を有し、簡單な記述では盡せない。が、擴がりつゝある退化の原因の若干を述べておかう。幼兒の高い死亡率、精神的缺陷者の増加、早産流産、死産等の普及的傾向、多くの母親の哺乳不可能、卵巢の病氣子宮變位の夥しい實例、アルコール中毒や微毒や結核の種族的害毒作用、不妊症の増加、過勞の母性的能力に及ぼす影響、妊娠の夥しい連續によつて國民的健康に及ぼす危險——これらすべての「惡」は、現實の社會的意義をもつてゐる。これらの大部分は、救済し得るものであるのだ。それは社會學、道德的配慮及び組織的活動の如何にか、はつてゐるのだ。

我々が文化及び人道に於て更に進化する時、人類としての偉大な義務に對して無智のまゝ若い者を教育する事は不道德的だと考へられる時代が必ず來るであらう。より

高い社會的秩序の中に育つた我々の子孫は、現代に於ける「防ぎ得べき」罪惡や病氣や不幸を省みておどろき、不思議がるであらう。丁度我々が、過去の人類の無智や罪業や暗愚や無神經の時代を省みて驚くやうにである。

やがて兩親としての責任ある義務を負ふべき若き男女は、家庭から學校へ、學校から國家によつて指定された衛生學、治療學の一般的相談所へと、性教育の経過をたどらねばならぬ。結婚前の少女達に對しては殊に十分な科學的教育が與へられねばならぬ。月經時及び妊娠に於ける衛生の注意、育児及び子供に對する教育の注意は、女性のあらゆる教育プランの最も重大な主題とならねばならぬ。兩性共に、出鱈目の生殖は罪惡である事を教へられねばならぬ。生殖能力の嚴肅は、青春期に於て強く印象づけられねばならぬ。結婚に於ては若き二人は、性生活の健康の規律、兩性の感情的生理的慾望の變化、胎兒の保護等について教へられねばならぬ。二人は又、人工的な養育を受けた子供よりも母乳で育つた子供の方が、生命力と美を得、そして病氣に對する抵抗力を養ふ事が多い事を知らねばならぬ。二人は更に、あらゆる人間は單に誕生

よりばかりではなく、祖先の生殖細胞の中に在る時代より、よき出發をしなければならぬ事を理解せねばならぬ。

早婚は、罪惡の防止及び社會の生理的精神的幸福に對する見地から、道德家及び社會衛生學者によつて獎勵されねばならぬ。が、無理な出産は非難されねばならぬ。妻の肉體は妻自身の所有物であり、妻は生殖に於て最も決定的な要素の一つとならねばならぬ。

美しき、生命力ある子孫を生む事に對する熱意が、あらゆる手段をもつて養はれねばならぬ。最も健康な兩親が最も健康な、しかも最も多數の子供を生むといふ虚妄は訂正されねばならぬ。子供が一人の母から矢繼早に生まれる時は、後になつて生まれる子供の死亡率を高め、後代の子孫を虚弱ならしめるであらう。或る調査によると、七番目の子供は三十三パーセントから百パーセントの死亡率であり、十二番目の子供は千人の中五百人以上は早死である。四番目の子供以後から、幼時に於ける死亡率は漸次に高まつてゐる。

結婚前後に於ける性衛生は焦眉の問題であり、かくの如き教育は重要でないといふ見地から家庭及び學校に於て等閑視されてゐる事はこれ以上黙視出来ぬ。あらゆる文明國のあらゆる階級の思慮ある人々は、今やますます聲高く性教育を要求しはじめた。殊に大戦争は、兩性間の關係に結びついた恐るべき多くの問題について、我々の眼をあけてくれた。野蠻な兇暴な残酷な情慾が、人間に残存してゐる事實は、こゝに書けないやうな實例となつて現はれた。多くの生命力に富んだ男性の不意の戦死、そして大多數の男性の肉體的精神的廢疾は、未婚の女性達の社會的異常性をますます複雑ならしめた。大戦争の残した結果は、人種學者、性衛生學者、政治家、教育家達に、多くの新しい謎を示した。

五

性の諸問題が論じられる時、一般の人々が示す矛盾や意見の相違や無理解は、性本能を人間の劣等な、動物的な側面に屬するものとする傾向である。が、獸類と人間の

性本能に於ける程、大きな相違をもつてゐるものはないのである。人間の性愛能力は生殖以外の高い目的に奉仕するものである。

自然の歩みはおそい。我々は人類の祖先が非常に古代のものであると考へ勝である。たとへ人類が五十萬年の昔から地球上に生存してゐたとした所で、宇宙の規模から考へる時、極めて短い期間である。人類が現はれる何百萬年以前から、他の獸類は生存してゐたに相違ない。長い世紀にわたつて、人類がまだ現はれなかつた時代があつたに相違ない。萬物の靈長と誇つてゐる我々も、まだ最近に獸類から進化したばかりであり、その肉體の中には人類以前の昔を記念する多くの殘遺的な器官が残つてゐるのである。人間の頭腦の中にも、野蠻な、獸的な、野生の祖先時代の考へや慾望や情熱や本能が残つてゐるのである。

人間の愛情の歴史は、まだ初期の段階にあるのだ。我々が知つてゐる浪漫的な情熱は、最近の進化にすぎない。今日に於ても、その性愛に於ける理想が鳥類や他の哺乳類と大差のない人類が地球上に生存してゐるのである。性愛に對する考へが獸類の水

準を殆んど出てゐない多數の男女が、文明國にもゐるのである。が、その反對に高貴な生活に於て心身の大きな情熱の力を示し、劣等な官能的要素を純化し、精神的なるものをますます高めつゝある進化した人達もゐるのである。その人々は、最も高く發達した性愛の可能性を我々に示し、そしてやがてこの精神化された力が、そのすぐれた作用を禁じてゐる現存社會秩序の泥沼と密林の間から姿を浮かび上らせる時代に對する待望を吹きこむ。

我々は、我々すべてが人生に於ける性の本當の意味を理解するまでは、性愛のルネッサンスを期待する事は出來ない。我々は性の力に對する自分達の見解の上で、昔も今も徒らに迷つてゐるばかりである。或る人は、愛は單なる肉慾にすぎないといふ下劣な、妨害的な教へに我々を導き、他の者は、精神的愛はあらゆる官能の慾望より分離し得るといふ困惑的な道に誘ふ。或る道徳學者は、下劣な本能から救はれる道は不斷の絶對の禁慾あるのみだと説く。性に關する見解や掟はまことに多種多様であり、大多數の若い男女は足許を照らす光なくしては人生の旅に於て絶えざる危険と困難とに出會ふのみである。

毎日、近視又は盲目の人々が性生活の蕨と沼の中を、未経験の男女達を導き歩いてゐる事實を目撃する事は、我々が廣く主張してゐる教養と道徳性に對して悲しむべき反射を投げかける。世人の多くは、若い者達を保護し得る唯一のものである所の眞理に手を伸ばす事を止める事によつて、罪惡といひ得る所行をしてゐるのだ。彼らはいかにも利巧さうに口をはさみ、囁き、「純潔」の訓戒を與へる。が、自分自身「純潔」の眞の意味を知らないし、實際的な指導については何も語らないのである。多くの場合、彼らは事實を暗闇にしておく事は道徳のために効果的であるといふ運命的な迷想の下に、わざと眞理に觸れないのである。それはつまり、この道は危険であるから出發の前に眼かくしをしておくといひながら、少年少女を懸崖に沿つた所へ使ひにやるのと同じである。そしてそれは我々の大部分が幼時に於て影響を蒙つた間違つた慎しみ、疑惑、沈黙などの結果となるのである。我々はその懸崖の下には荒れ狂ふ海とそそり立つた暗礁のある事を知り、自分達の經驗に於て多くの者が墜落して死んだ事も

知つてゐる。しかし我々は沈黙を守つてゐるのだ。たとへ口を開けて囁いても、徒に混亂させ、或は間違つた導きを與へるばかりなのだ。そして我々は尙、自分達が子供を愛してゐるといつてゐるのだ。

今や正しく我々が自分自身及び子供達に向つて、男女兩性の愛は生理的衝動を超越した靈氣のやうなものではない事を教へ、同時に愛は單に性交にすぎないといふ虚妄の導きを妨げるやうに努力すべき時である。我々は子供達に眞理を話さねばならぬ。眞理は美しきものであり、常に善である。我々は、この暴慢な肉體の慾望からこそ、靈魂を純化し向上せしめ、同情と自己犠牲とを増さしめ、家庭と社會を光輝あらしめ、美の觀念を深め、倫理的宗教的感情を増大せしめ、人間性のあらゆる力を旺ならしめる所のおどろくべき感情が發達するのである事を、子供達に説明しなければならぬ。

かくの如き性教育の基礎が承認されたら、その実施はまづ母親によつてやさしく初められ、子供及び少女の教育を委ねられた教師達によつてつゞけられねばならぬ。それとも、我々は、子供達を禁制的な幻想、怠惰な不幸な邪推、懷疑と驚愕、無智の

破壊的な、惡魔的な影響、野卑な、好色的な、惡業的な罪惡の犠牲たらしめる所の、現在の等閑視の態度を繼續すべきであらうか。

二、性教育に於ける女性の役割

一

教育の改革者達の間には、性教育の初步的な教師は母親であるといふ意見が一般に行はれてゐる。この事は我々を、婦人運動と性の問題との關係に導くのである。女性の上には、生命の傳達と子孫の養育に於ける主要な役割が課せられてゐる。もし女性が男性よりも、若い者達を生命の法則に於て訓練する能力が劣り、無準備である時、その缺點は即刻に除去されねばならぬ。何故なら、後年に於ける教育が成功するかしないかは、すべて初歩の導きの如何にか、はつてゐるからである。

女性達を未開時代の束縛の一切から解放する事は、選舉區の改正や工業上の改革や結婚及び離婚に對する法規上の改正などで解決の出来る問題ではない。最も重要なこ

とは、性の問題に對する理解を女性の教育の領域の外にむいてゐる所の、虚妄な偏見をとり除く事である。この生命の大きな部分は、最早ヘンリー・ジェイムスがいつたやうに、「處女に對しては秘められた本」であつてはならぬ。知識の解放は、社會的及び個人的不合理からの解放をも伴ふものである。

人間の最も基礎的な大眞實を除き、或はかくす事は、女性に對する「高尚な教育」にとつて必要な事であつた。女性達は、間違つた自己防禦の考へから、この知識に對する禁制の中にもたのである。が、この光明から顔をかくす態度は、女性が單に無邪氣であり無智である事を好む官能的な男性を満足させ、或は女性の絶對服従を要求する家長主義的な考へに囚へられた男性を喜ばすとはいへ、決して女性自身に對しては何の保護にもならないのである。その反對に無智は、女性に對する最も重大な危険の一つである。女性の生活に於ける悲劇の主要な原因は、兩性と母としての機能との關係から生ずる所の道德的争闘、感情的壓迫、結婚及び家庭の諸問題、その他多くの困難の中に存在してゐる。

人生に於て無理強ひの獨身生活を送らねばならない事情が多いといふ他に、女性達には男性達より以上に、結婚の不幸に對する大きな危険にさらされてゐる。多くの職業や仕事に働く女性の數は増加するばかりであるが、家庭は今でも多くの場合、女性にとつて一般的な領域である。人種的本能の存する限り、女性は家庭の主要な建設者であり、家庭生活の中に最も高い満足を見出すであらう。それ故に女性の幸福は、一般の男性の幸福が「爐邊の平和」の上にある以上に、平和な愉快な家庭的環境の上にあるのである。結婚は多くの女性達にとつて母性を意味し、男性と協力して家庭を作る事を意味し、愛情と同情とに對する強い憧憬の成就を意味し、義務の能力の十分な發揮を意味する。女性の大部分は、幸福に對する一切の機會を結婚の上に賭けてゐるのである。

妻達の多くが、結婚愛に對する處女時代の夢を實現し得ないでゐる。事實は明らかである。妻達の多くは、絶望的な落膽を公然と口に出し、發表する事はしないかも知れない。しかし失望の氣持は常に存在し、幻滅は一般の結婚に共通したものであると

考へ、止むを得ない事には堪へ忍ばねばならぬと考へる事によつて、僅かに慰められてゐるのである。結婚しないより不幸な結婚でもした方がいゝといふ考へは、常に慰めとはならない。不幸な結婚をした女性は、屢々未婚の姉妹達より一層不幸である。彼女は、愛の感情がまだ本當に強く動いた事のない獨身の女性よりも、精神的、肉體的の不健康に苦しんでゐる。

女性達の結婚生活の不幸の主要な原因は、自分自身の生理的・心理的機能に對する無智、性の結合を支配してゐる自然の法則に對する誤解、男性の本體に對する無理解等の中に認められる。結婚の幸福にとつて必要な知識を缺いてゐる事は、屢々女性自身には意識されてゐない。殊に處女は自分の無智に對して全然氣がつかないし、多少いの場合に於ても漠然とその方面の缺陷を意識してゐる位である。處女の多くは、感傷、愛の魅力、自分自身の家庭を作りたといふ希望、結婚は女性に社會的位置を與へるといふあり來たりの考へ等によつて、結婚や許嫁を承諾するのである。彼女の最も強い情熱は何の關係ももたない場合が多い。彼女は、情熱の存在すらも氣がつかない。男

性から求愛された時に、眠つてゐた衝動が眼を醒ますかも知れないが、慾望の十分な姿は理解されないし、それは悪魔の誘惑として強く拒絶される事も多いのである。求愛者の熱心は、無經驗の少女を困惑させ、侮辱を感じさせる時もあるであらう。彼女の自然的な女性としての遠慮や慎しみが、結婚後には異常な或は病的な變化を示す事もあらう。

性は人間の下劣な慾望であり、自然の作用は神秘的な羞恥に満ちたものであるといふやうに少女時代から精出して教へられて來た女性、そしていかなる科學的な注意を與へられた事もない女性は、結婚に於て恐るべき不幸の危険にさらされてゐる。そのやうな女性達は、間違つた教育のために心の中に植ゑつけられた深い根の刺をぬき、ひそかな個人的な考へや推量によつてたまつた腫物を取り去るために、全生涯の大部分を殊に苦しい經驗の中に過さねばならないであらう。結婚は多くの男女達にとつて幼時及び少年少女時代に心の中に形作られた誤解と虚妄から脱れるために、非常に困難な修業となる。

初歩的な科學的知識に對する權利を奪はれて育つた花嫁は、全然夫の手ほどきに頼らねばならない。性の體得は急激であり、兇暴であり、屢々鋭敏である。男性も亦常に女性が男性に對してさうであるやうに、女性の深い心理的生理的慾求に對して無智である。夫婦のどちらも、自分達が面接してゐる無智と間違つた教育のための多様の危險に對して、意識をもつてゐない。彼らは、お互に愛し合つてゐるといふ事實にのみたよつてゐる。彼らは、性愛の技巧が結婚愛の唯一の保持者である事を知らないのである。

二

我々は、健全な性教育に對する女性の拒絶は根深く、遺傳的な性質をさへもつてゐると信じ勝である。が、經驗は、その考への誤りである事を證明してゐる。多くの人によつて示される無關心や敵意は自然的なものでなく、又遺傳的なものでもない。普通の智能力を供へた幼兒には、そのやうな冷淡は存在してゐない。そこには寧ろ非

常に自然的であり、合理的な好奇心の蕾がある。子供は自分の家に出産があるとひどく印象づけられ、いろ／＼な質問をする。子供達は、兩親達がお互に濫費してゐる愛情を目の前に見てゐる。子供達は戀愛や約束や結婚について、いろ／＼な事を聞く。が、殊に小さい少女は、好奇心を満足させようとする時に沈黙を命せられ、或は叱責されるのである。そこで少女は次第に、その心の最も深い所に、「それは下品な、悪い話題である」といふ考へを沈ませはじめるのである。

この抑壓の方法は幼時に於て用ひられ、少女が發情期に近づくと殊に強められる。少女は、自分が最も知りたがつてゐる事は「失禮な、口に出してはいけない、野卑な事である」といふ信念を養つてしまふのである。多くの家庭に於ては、必要な生理的慾望や行爲を現はすためにあらゆる暗語が發明される。たとへいかに必要な場合でも性に關する事を露骨にいふ事は禁せられる。この「恐ろしい」話題は恥かしさうな囁き聲でいはれ、自然の機能を語るために新しい言葉が發明される。絶えず、時には病的なほど、「立派な少女の知つてはいけない事」を、自分達の十四歳の少女に知らせな

いためにいろ／＼な心配がされる。そこには慎しみ深い態度沈黙温順に對するきびしい掟が設けられ、少女の遠慮を養つても好奇心は決して抑へる事の出来ないいろ／＼な工夫が凝らされる。

このやうな教育は、屢、信すべからざるやうな滑稽な結果をもたらす。少女は實際に、徳性と魅惑とは生活に對する全き無智と同義語であると話される。そのために少女は、愚昧と鈍感とが最も大きな女性の魅力であるといふ理想を、心の中に抱くやうになるのである。人間の生命の基礎についての知識を得る事をきびしく取締る事は、一般に「學ぶ」といふ事に對する臆病と冷淡とをもたらす。探求的な精神と習慣とのよき根源である好奇心は、餓死し、破壊され、隣人達の下劣な行爲や野卑な噂話や俗惡な實例などによつて、満足の代用物を見出だす。

間違つた教育を受けた女性が結婚期に達すると、その心は性愛に關する一切のものに對する誤解や偏見や故意とらしさや嫌惡や恐るべき過失で一杯になつてゐる。完全な無智のために、彼女は結婚生活の調和を破壊し、妨害するいろ／＼習慣を得てゐ

るであらう。彼女の受けた教育は普通の結婚愛に對する臆病、そして彼女自身及び夫に不幸をもたらす性的ヒステリーの徴候の絶え間なき連續を形作つてゐるだらう。

科學的知識の缺けてゐる場合に女性達の性質及び精神に有害な影響を及ぼす例は、決して假説的なものではなく、「教養ある」といはれてゐる社會の一般的な家庭に於ても極めて普遍的である。我々は知人の多くの家庭内に、若い男女達が性的關係に於て亂雜を極め、純潔を輕蔑し、種族に對する自分達の責任を全然認めてゐない例を夥しく見出だすであらう。そしてその一方に於ては、若い女性達は一切の科學的知識から用心深く遮られ、ひどく無智であり、性生活の行爲を道徳性や衛生や母性との關係に於て考へる事に著しいひがみをもつてゐる。男女兩性の道徳の基準に對する有毒な虚偽を教へられ、科學的知識も、愛と親としての義務に對する尊敬もなしに育てられた若い者達が、その子孫によき傳統を傳へ得るとは決していひ得ないであらう。

性教育に對するわざとらしい慎しみを原因とする反對が、主として女性に多いといふ事は疑はしい。私は寧ろ、反對は男性の方に強く、正しい事を知りたいといふ女性の

希望が男性のために妨げられてゐるといふ意見に賛成である。男性が女性の廣い教育に對する要求を頑固に禁じてゐる例は多い。女性の教養に對するこの敵意は、殊に性教育に關する場合に於て著しい。我々は、少年は生理學的事實を多少知つてもいい、が少女は結婚までは全然無智でゐなければならぬと云ふ多くの父親達を知つてゐる。保守的な男性がきびしくこのやうな主張をする原因は、無智によつて女性を「保護」しようとする家長制度的傳統を保存したい希望の中にあるのだ。

智能力のある、探求的な少女が生命の基本的な理解を得たいと思つても、その希望を赤裸々に申し述べる事は殆んど出来ないのである。少女は、好奇心をかくす事を強ひられる。この「かくす」といふ事は、彼女が育ち、教育されてゐる環境に於ては最も重要なことなのである。赤裸々に質問する事は、無禮又は女らしからぬ態度だとされる。それ故に少女は、好奇心も起らない無智の態度を強制的に示さざるを得ないのである。彼女はあらゆる犠牲を拂つても、過度の慎しみと纖細の評判を大事にしなければならぬのである。この自己防衛の態度は、屢、虚偽、欺瞞、猫かぶりを生む。

女性は身近の者達殊に男性の者達に對して尊敬を維持しようとする、常に自分自身を偽らざるを得ない場合が多い。しかし男性達は又女性が不誠實であり、欺瞞的であり、秘密的であるといふ。しかしその時は、女性は大體に於て男性の欲する通りの状態にゐる時なのである。もし眞實と赤裸々とが女らしからぬものとして非難されるのであつたら大多數の女性達が虚飾や不誠實を避ける方法がどこにあらうか？

我々は女性達が粗漏であり、科學的明確性を缺いてをり、省察的であるよりも感情的である等といふ。が、女性達の眞理に對する明らかな不適當はどこまでが先天的でありどこまでが教育や習慣や社會的影響の結果であらうか？ 私は、女性の知識的臆病の傾向の十中八九までは、單に彼女が受けた間違つた教育の結果であり、男性のもつてゐる女性の行爲に對する基準に従順である結果にすぎないと考へる。

人間の最も偉大な感情についての女性の自然的な探求精神は、初期の性教育の研究者達の多くが女性であつた事によつて十分に證明されてゐる。それは又、小説や戀愛詩が女性によつて熱心に讀まれる事によつても證明されてゐる。殊にこの知識に對す

る慾望は、現在の教養ある女性達が、性問題の科學的研究者達の求めに應じて、材料を集めたり明瞭な意見を示したりする仕事に十分に堪へ得てゐる事によつても證明されてゐる。熱心な、思索的な女性達の協力なくして書かれた性問題の研究書は、恐らく一冊も存在しないであらう。その上、性衛生に關する最も價値あり最も實際的な近代の著作は女性の手になるものが多いのである。

智力的な女性達が、若い時代に受けた妨害的な教育や、野卑な、社會的な性に関する見解から解放された時には、常に眞理を語り、勇氣をもち、よき直覺力をもつてゐる點に於て男性にまさるであらう。彼女達は、女性の種族的義務や、男性との關係や、社會的位置や、最も神聖な感情や、生理的幸福や、精神的教養に深い關係をもつてゐる所の問題を、赤裸々に論議する必要を直截に實感するであらう。

この偉大なるべき改革に於て、私は切に熱心な女性達の助力を信じたいのである。性の全問題が街頭の卑俗さから本來の精神的地位にまで高められる所の、社會の態度を形作る上に最も効果的な助力をなし得るのは、正に彼女達である。

三

兩性を結合させる深い感情をもつた女性達は、疑ひもなく健全な存在である。或る觀念が時として色情狂的な、或は愛に對する過度の憧憬を生む事は事實である。が、男性の情熱と愛とを求める心は常に自然であり、異常と混同されてはならぬ。この慾望は、若い女性の偉大な向上の原因となるのである。やさしい正直さをもつて母に愛を告白する女性は、叱責されたり嘲弄されたり、さるべきでない。その時その女性の慾望は、彼女の卓絶した義務と自然の能力を具す時が來た知らせとして、歡迎されねばならないのである。

愛に對する興味を邪惡とし、この情熱の本體を理解しようとするすべての者を狂人扱ひにする人々が存在する。この健全な本能に對する輕蔑こそ、女性達の自己欺瞞を生み、最も強い感情について病的な慎しみを養はせるものである。恐しい輕蔑や嘲弄が健全な慾望を心の深い片隅へ追ひやり、そこでそれは「潜在觀念」と化するのである。

愛や結婚に對する憧憬を告白する事は、少女や若い女性にとつて似合はしくない事だとする虚妄を破壊しなければならぬ。性的早熟は男性よりも女性に多い事は明らかであり、少女が少年よりも感傷的な愛に對して感じ易い事も明らかである。我々は又愛情を剝奪する事は、男性よりも女性に對して一層大きな生理的精神的影響を與へる事を認めねばならぬ。その上、母性に對する憧憬は大多數の女性にとつて、最も深い感情である。これらの事實は、女性の生活に於ける愛情の大きな支配力を證明してゐる。そして生殖本能の力は男性に於けるよりも女性に於て一層普遍的であり、重大である事を證明してゐる。

それ故に、合理的な性教育は女性にとつて單に個人的幸福のみならず、その子孫達及び社會全體の利益のために重大であるのだ。女性達が眞剣になりさへしたら、社會の性に對する態度は無限に向上し得るであらう。しかも性の問題は、人類の大多數の母親達によつて眞面目に考へられてゐないのである。この無關心は、幼い自然の好奇心を満足させてくれる事を母親に願つてゐる子供達にとつて、まことに悲しむべき

影響をもたらすであらう。

先づ家庭に於て細心な、慎重な教育がはじめられ、種族的科學に於ける少女達の訓練は、學校に於て次第に生物學的な課程に進まねばならぬ。有能な教師達との個人的な會話及び適當な書物の選擇を導くことによつて、それはなされねばならぬ。我々が、學校を、少年少女達の結婚と子孫の養育のための準備所として、考へる時代は近くに來るであらう。我々は、性愛に對する訓練は、事業に對する訓練と同様に重大である事を認めるやうになるであらう。

將來の學校に於ては、若い男女達は兩性間の基礎的な生理的相違を理解する事が第一の義務である事を、一般の教育課程の一部として教へられるであらう。優生學は宗教や倫理と同じ位置にまで高められるであらう。母性に對する注意は、社會に對する絶對的な義務として認められるであらう。子供達に對する養育は、健全な心理學と科學的な衛生の上に基礎がおかれるであらう。

我々は既に、性愛を道德的社會的影響の重大な源泉であるとする新しい考への發芽

を見てゐる。大戦は性の問題の或るものを一層深め、探求精神と知識の普及とに對する眞面目な關心を呼び起した。そしてそれは、我々が實際的な倫理と効果的な衛生とを形作る上に大いに役立つであらう。

誤

- 二二頁十二行 睪丸は鼠蹊部……………
- 二二頁四行 液體の中にある。……………
- 二二頁十一行 約十分の一時……………
- 二二三頁二行 膈の上部にある。……………
- 二二三頁十一行 排卵は常に絶えない活動と……………
- 二二三頁十二行 その上、卵巢を取り除いても……………
- 二二五頁十行 男性の陰囊の腺細胞……………

正

睪丸は鼠蹊部近くにあり、發情期が来て始めて陰囊に十分垂れるのである。

液體である。精虫が子宮又はその附屬器官で成熟した卵子と……………

約十分の一時

膈の深部に開口する。

それは排卵は月經と必ずしも關係しないで活動し妊娠前には必ず見られるものである。

その上、卵巢が排卵しない時でも、この毎月の作用に影響しないことがある。則ち、卵巢や喇叭管が非活動的でも月經はある。

男性の睪丸の腺細胞のある部分から……………

性の新教典

定價二圓四十錢

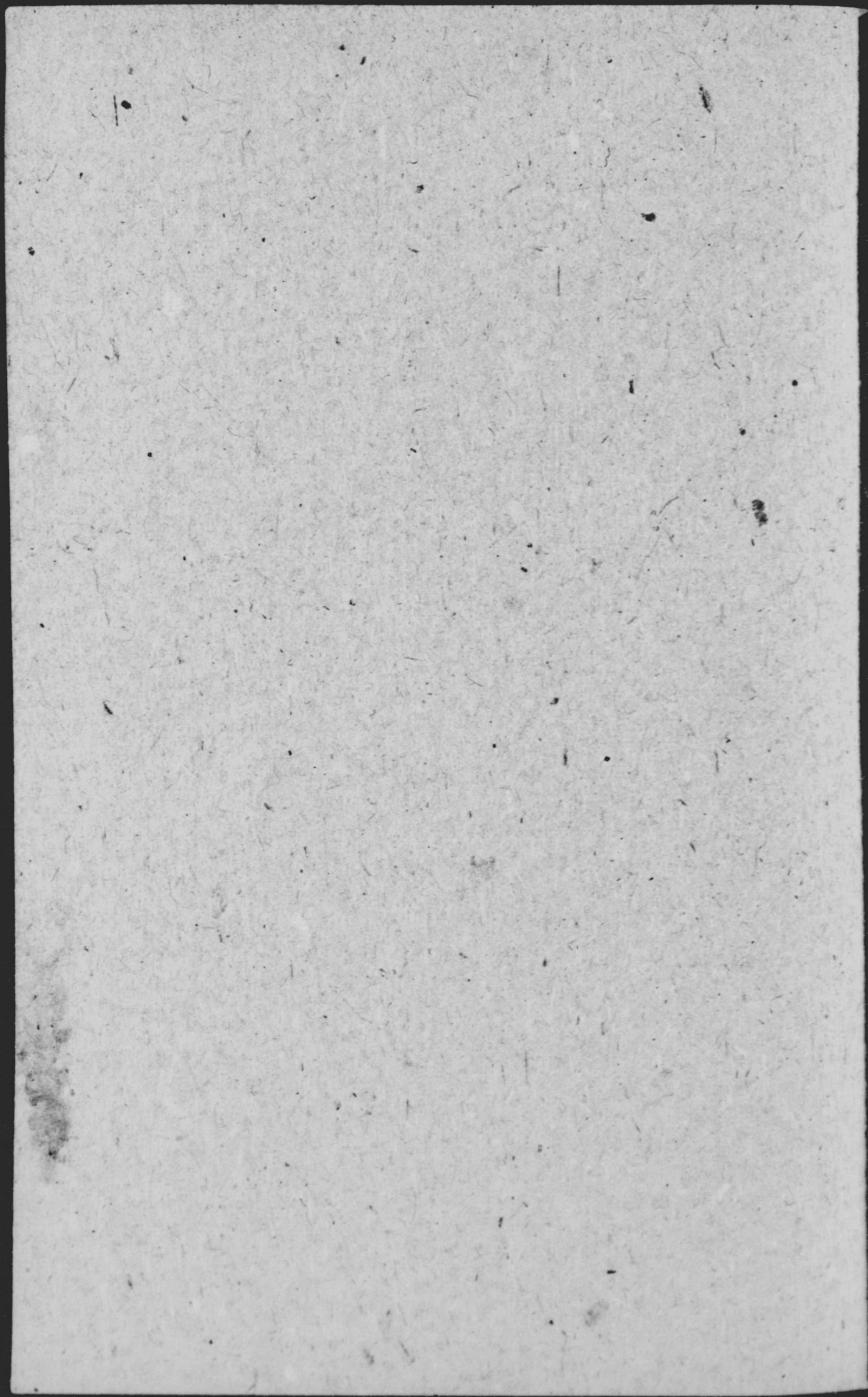
昭和八年九月十日印刷
昭和八年九月十五日發行

著者 蘆原 覺了
發行所 東京市神田區保町二番地 山内 胸太郎
印刷者 東京市神田區美土代町二ノ一 横山 喜助
印刷所 東京市神田區美土代町二ノ一 活文 舍

發行所

東京市神田區
表神保町二番地
電話三六三四

駿臺書房



299
79

